

浜松地域の経済動向

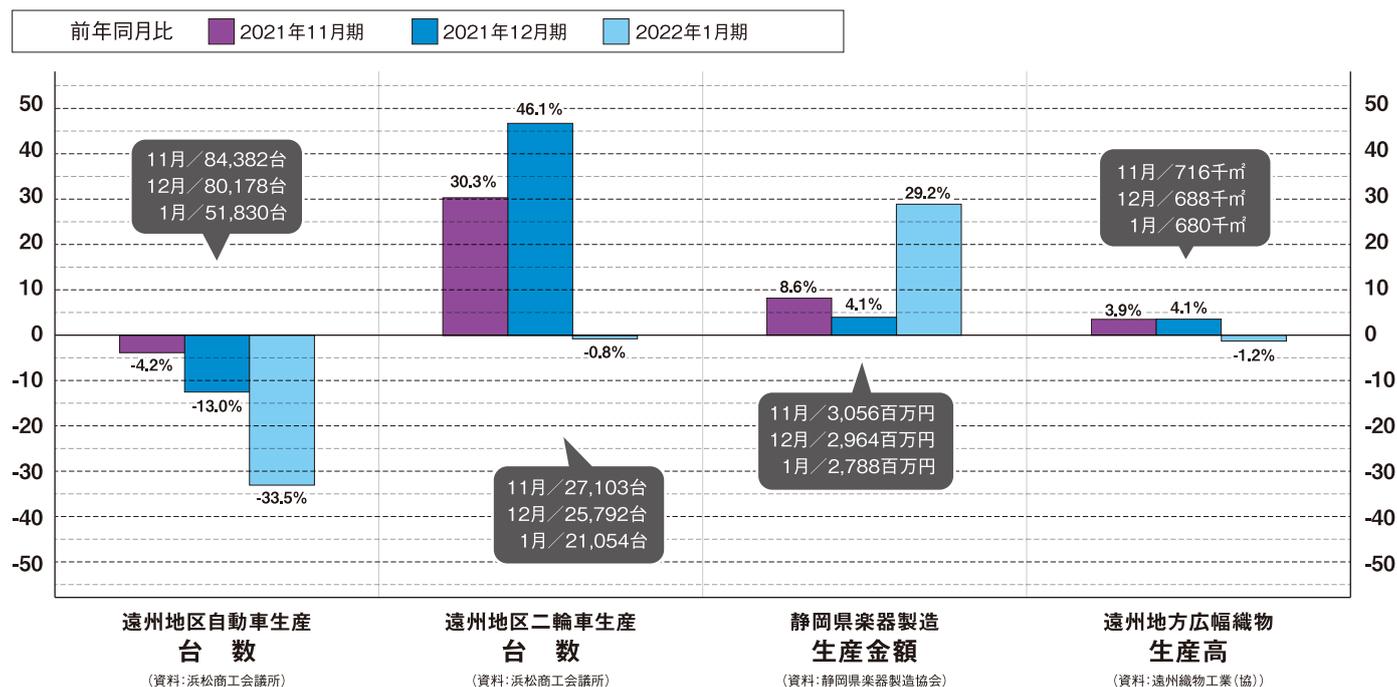
2022年1月を中心に

オミクロン株感染拡大、景気は再び悪化傾向

自動車、二輪車生産台数は半導体不足の影響が大きく減産となった。
 楽器は電子・電気ピアノの需要が高く堅調に推移した。遠州地方広幅織物生産高は下降に転じた。
 市内ホテルの稼働率はオミクロン株感染拡大により、団体客のほとんどがキャンセルになるなど
 低調に推移した。ガソリン価格は高止まりとなっている。
 昨年10月以降順調に推移していた住宅着工件数もここにきて陰りが見え始めている。
 1月は西部地区での企業倒産はなかった。雇用情勢は回復傾向が続いている。



① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2022年1月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比33.5%減の5.1万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は32.5%減、小型四輪車は37.8%減、前月まで3カ月連続プラスと堅調に推移していた普通自動車も1月は7.8%減となった。国内向けは35.2%減、輸出は28.5%減であった。半導体不足の影響が長期化してきており生産台数が低迷する要因となっている。

二輪車



2022年1月における二輪車生産台数は前年同月比0.8%減の2.1万台となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。国内向けは135.3%増、輸出は6.5%の減であった。排気量別では、50cc以下154.3%増、51cc～125cc以下16.5%増、126cc～250cc以下17.4%減、251cc以上6.8%減であった。原動機付自転車(一種/二種)に区分される125cc以下は値段も手ごろで利便性が高く、使い勝手が良いと需要が高い。

楽器



2022年1月における生産金額は前年同月比29.2%増の27.8億円となった。分野別に1月の生産金額を見てみると、ピアノ0.1%増、電子・電気ピアノ60.9%増、電子オルガン16.1%減、管楽器4.5%増となった。電子オルガン以外は前年同月を上回った。需要は底堅く好調を維持している。

繊維



2022年1月の生産高は前年同月比1.2%減の680千㎡となった。前月まで6カ月連続で前年同月を上回っていたが、1月は再び下降に転じた。オミクロン株による感染拡大が続いており、生地の需要低迷が続いている。綿糸等原材料価格は高止まりしており、染色加工の生産コストも上昇してきている。価格転嫁が必要な状況となっているが、春先以降は綿織物の需要減少が予想されるため対応に苦慮している。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年1月におけるタクシー乗車人員は前年同月比11.6%増の23.9万人となった。上旬は年末からの流れで比較的順調に推移したが、オミクロン株がまん延し始めた中旬以降は昼、夜とも利用者が減り始めた。まん延防止等重点措置が適用されてからは、繁華街での利用者は激減した。

観光

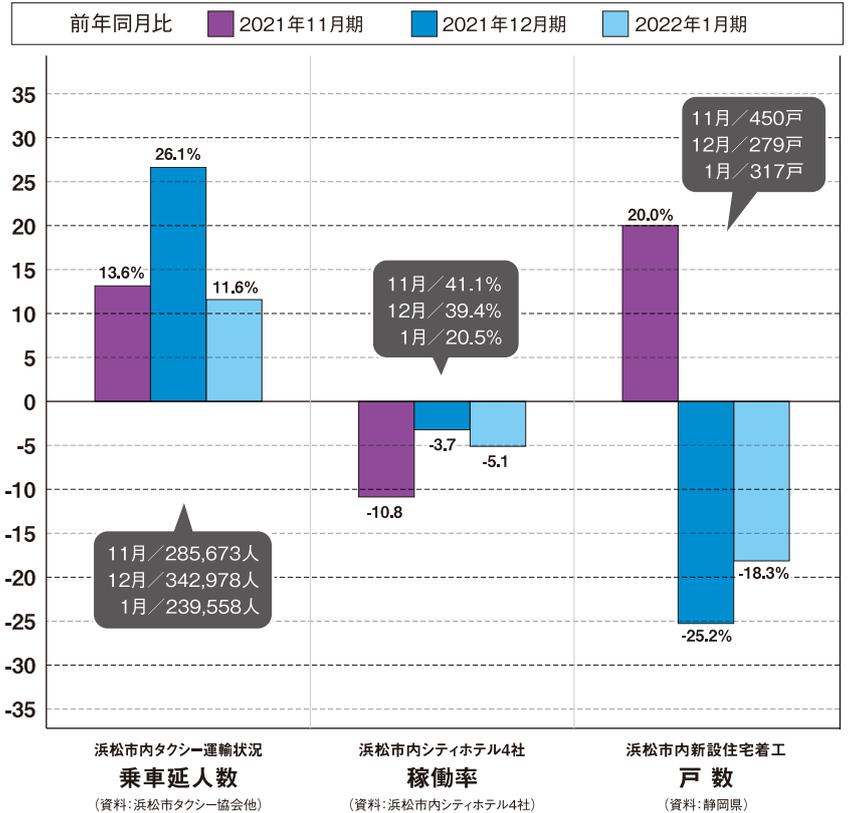


1月の浜松市内ホテルの稼働率は、前年同月より5.1ポイント低い20.5%であった。稼働率20.5%は自粛休業明けの2020年7月と同率。前月との比較でも18.9ポイント下回った。オミクロン株の感染拡大により、団体客のほとんどがキャンセルとなった。観光支援策「今こそしずおか元気旅2」の停止も影響した。

住宅着工



2022年1月における浜松市の新設住宅着工戸数は、前年同月比18.3%減の317戸となった。前年同月より71戸下回った。持家は前年同月比41戸減、貸家は36戸減、分譲住宅は4戸減であった。静岡県全体の住宅着工戸数は前年同月を364戸下回る1,301戸であった。昨年10月以降、回復の兆しが見えた浜松市内住宅着工件数も、2カ月連続で前年同月を下回っており、陰りが見え始めてきた。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年1月の有効求人倍率は1.21倍と7カ月連続で1倍を上回った。前月との比較では0.02ポイント、前年同月との比較では0.18ポイント上回った。全国(1.20)との比較では0.01ポイント、静岡県(1.18)との比較では0.03ポイント上回った。浜松管内の有効求人倍率が1.20倍を超えたのは2020年3月以来であった。前月より有効求人数も増加しており、雇用情勢は回復傾向となっている。

倒産企業



2022年1月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は0件、負債総額は0億円となった。政府、地方自治体、金融機関等の各種中小企業向け資金繰り支援策の効果もあり、1月は2007年1月ぶりの倒産企業数0件であった。静岡県全体の倒産件数は10件で前年同月より11件減少した。

ガソリン価格

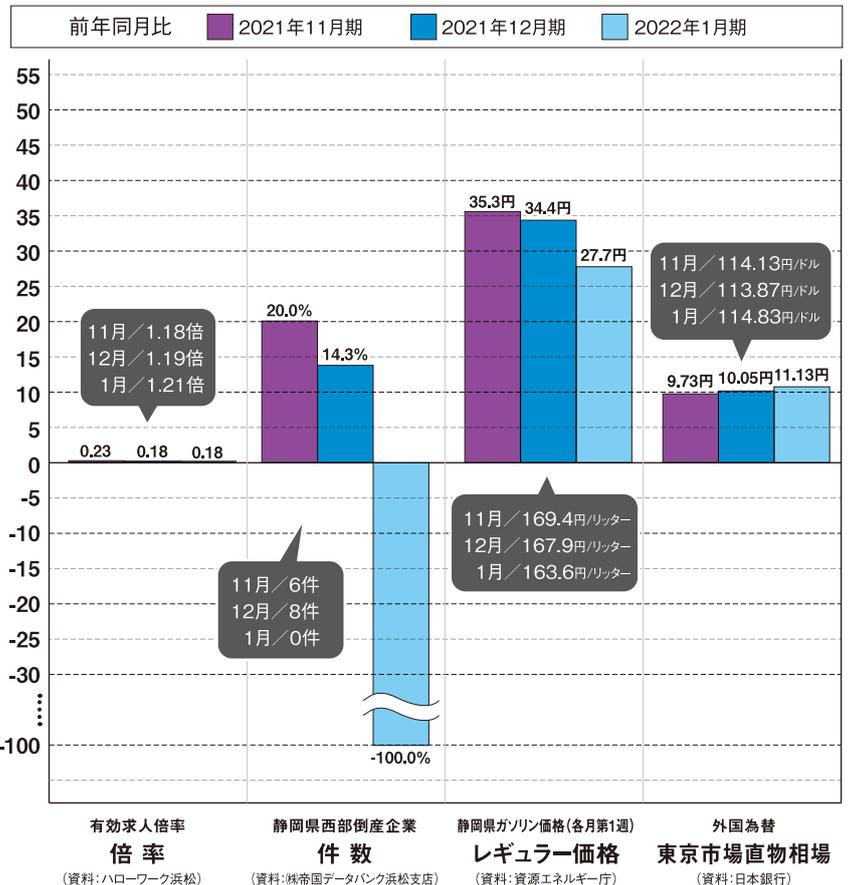


2022年1月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり163.6円となった。前年同月と比較すると27.7円上昇した。前月との比較では4.3円低下したが、4カ月連続で160円台となっており、ガソリン価格は高値が続いている。経済活動が再開されつつあるなか、産油国であるロシアとウクライナの情勢が緊迫化しており、更なる値上げによる企業活動や家庭生活への影響が懸念される。

外国為替



2022年1月の外国為替は1ドル114.83円、前年同月と比較すると11.13円の円安となった。前月との比較でも0.96円の円安となっている。為替に影響があるとされる日本の物価上昇率が米国より低い状態となっており、米国の金利上昇も続いていることから円安長期化が予想される。



浜松地域の経済動向

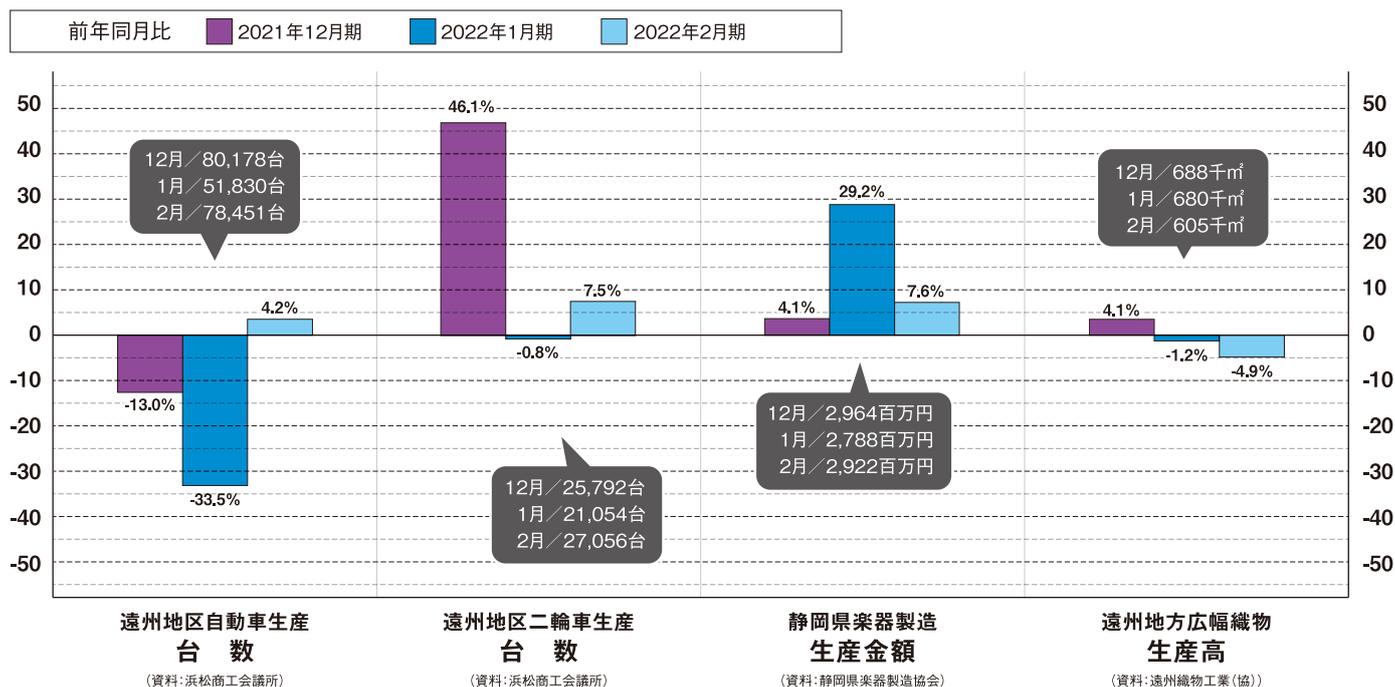
2022年2月を中心に

まん延防止等重点措置の影響もあり、
運輸・観光業の業況は悪化した

自動車・二輪車の生産台数は半導体不足の影響が残るものの堅調に推移した。
運輸・観光業では、まん延防止等重点措置が実施されていたため、タクシー乗車延べ人数は前年同月を大きく下回った。ホテル稼働率も観光支援策がなかったこともあり低調に推移した。ガソリン価格の上昇は止まらず、13年振りに170円を超える高値となった。円安が進行しており、物価上昇の要因となっている。求人数は堅調に増加しており雇用情勢の改善が続いている。



① 製造業〈主要経済指標〉



自動車

2022年2月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比4.2%増の7.8万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は6.8%増、小型四輪車は8.6%減、普通自動車は144.4%増となった。国内向けは7.2%増、輸出は4.9%減であった。需要は旺盛であるが、半導体不足が生産に影響を与えている。コロナ禍での部品供給網混乱の影響もあった。

二輪車

2022年2月における二輪車生産台数は前年同月比7.5%増の2.7万台となった。国内向けは37.3%増、輸出は5.3%増であった。排気量別では、50cc以下135.6%増、51cc～125cc以下5.5%減、126cc～250cc以下42.3%減、251cc以上9.7%増であった。半導体不足に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大により、部品入荷や物流の遅延が継続・長期化している。現状、スムーズに生産が出来ず、納車が遅れる状態となっている。

楽器

2022年2月における生産金額は前年同月比7.6%増の29.2億円となった。分野別に2月の生産金額を見てみると、ピアノ2.1%増、電子・電気ピアノ61.9%増、電子オルガン8.6%減、管楽器4.4%減となった。インド、中国、台湾など世界各国の購買力が高まっており、需要は底堅く好調を維持している。

繊維

2022年2月の生産高は前年同月比4.9%減の605千㎡となった。2カ月連続で前年同月を下回った。アパレル向けの生地需要は低迷が続いている。原材料である綿糸価格は上昇傾向となっており、ガソリン価格上昇による物流コストも大幅に増加した。今後も値上がりが続くようであれば、収益に与える影響が懸念される。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年2月におけるタクシー乗車人員は前年同月比17.4%減の17.5万人となった。2月は月を通してまん延防止等重点措置が実施されていたため、昼の買い物客、夜の繁華街での利用客は少なかった。各社、乗務員を休ませるなどして対応した。

観光

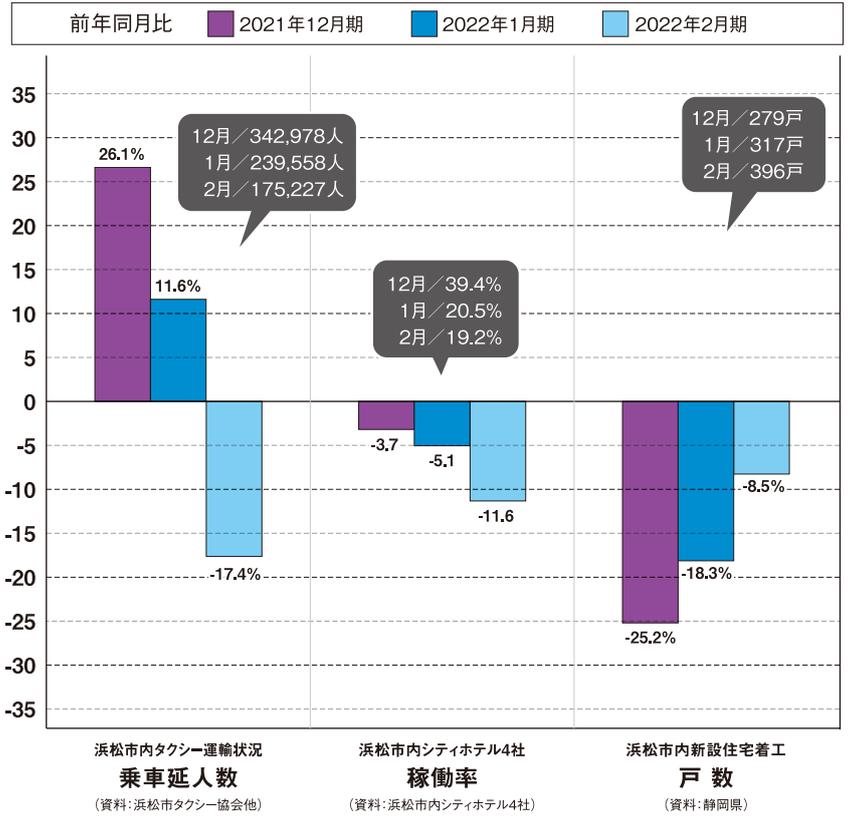


2月の浜松市内ホテルの稼働率は、前年同月より11.6ポイント低い19.2%であった。4カ月連続で前年同月稼働率を下回った。2月はGoToトラベルや「静岡今こそ元気旅」などの観光振興策がなかったこともあり、ビジネス客、観光客とも利用者は少なかった。特に、団体客の予約が減った。2月の稼働率は月を通して低調に推移した。

住宅着工



2022年2月における浜松市の新設住宅着工戸数は、前年同月比8.5%減の396戸となった。前年同月より37戸下回った。持家は前年同月比7戸増、貸家は96戸増、分譲住宅は140戸減であった。静岡県全体の住宅着工戸数は前年同月を74戸下回る1,551戸であった。浜松市内住宅着工件数は3カ月連続で前年同月を下回っているが、前月との比較では79戸増加しており、幾分持ち直しの傾向が見られる。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年2月の有効求人倍率は1.22倍と8カ月連続で1倍を上回った。前月との比較では0.01ポイント、前年同月との比較では0.17ポイント上回った。全国(1.21)との比較では0.01ポイント、静岡県(1.21)との比較では0.01ポイント上回った。有効求人数は2021年5月以降、10カ月連続で前年同月を上回った。前月との比較でも264人上回るなど、雇用情勢の回復が続いている。

倒産企業



2022年2月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は1件、負債総額は0.9億円となった。前年同月の倒産件数は4件であり、3件減少した。負債総額も17.9億円少なかった。静岡県全体の倒産件数は4件で前年同月より8件減少した。

ガソリン価格

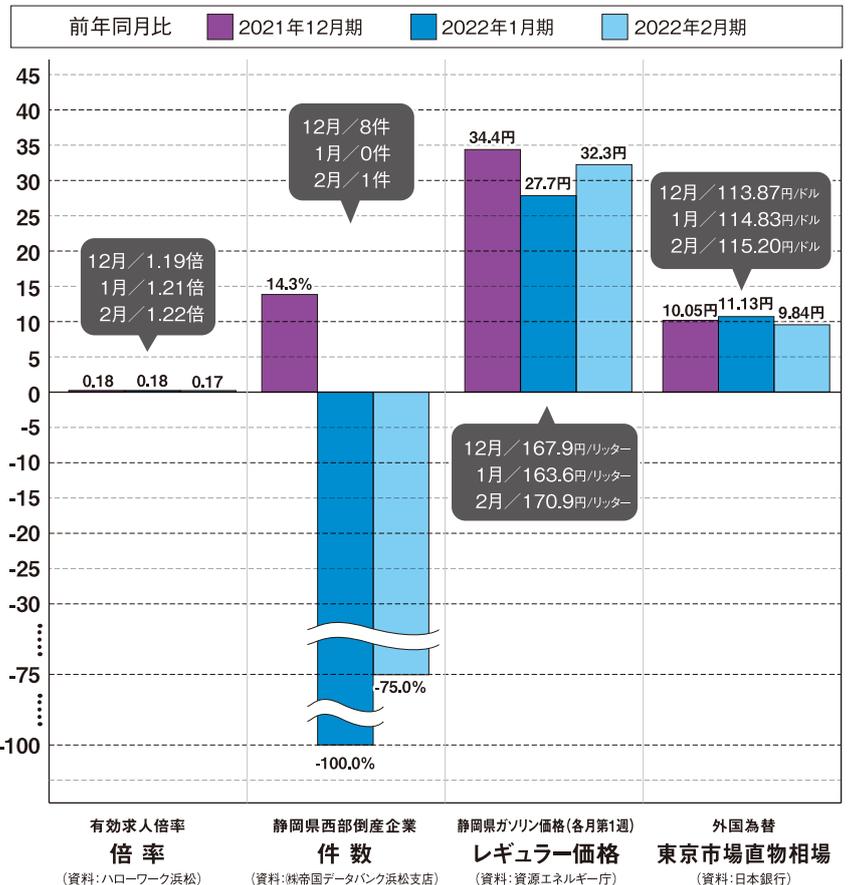


2022年2月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり170.9円となった。前年同月と比較すると32.3円上昇した。前月との比較では7.3円上昇した。レギュラーガソリン価格が170円を超えるのは13年振りの事である。産油国が大規模増産要請に難色を示していることもあり、値上げに歯止めがかけられない状態となっている。

外国為替



2022年2月の外国為替は1ドル115.20円、前年同月と比較すると9.84円の円安となった。前月との比較でも0.37円の円安となっている。円安の要因としては、米国の利上げにより日本との金利差拡大と、資源価格上昇による貿易収支の悪化が見込まれること、日本が円安は正に消極的などが挙げられる。



原材料価格の高騰に加え、 オミクロン株急拡大で業況悪化

2022.
1月～3月期
中小企業景気動向調査
結果報告
2022年5月発行

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数は、「原材料不足・高騰」「オミクロン株急拡大」「ウクライナ情勢」などが複合的に絡み合い、2 四半期振りに悪化した。

※業況判断指数……景況判断の基準としてDI (Diffusion Index) による分析で、各質問項目のプラス傾向割合からマイナス傾向割合を差し引いた数値のこと

	全体				うち小規模事業者			
	調査数	業況			調査数	業況		
		前期	今期	見通し		前期	今期	見通し
全体	617				250			
二輪車部品製造	49				22			
自動車部品製造	75				21			
機械部品製造	57				30			
楽器部品製造	20				13			
繊維製造	26				21			
卸売業	73				23			
小売業	59				26			
建設業	68				13			
不動産業	42				29			
飲食・宿泊・レジャー等	21				「2022年1月～3月期中小企業景気動向調査」より 浜松市内の中小企業を対象に、業況判断・売上高・経常利益等のDI 値を、四半期毎に産業別・地域別等に算出する景気動向調査です。経営者へのヒアリングをベースに算出しています。			

調査で聞き取ったコメント

※意見の多かったものを抜粋して掲載しています。

- 海外向けのバイク、レジャーボートの部品受注が増加している。(二輪車部品製造)
- オミクロン株拡大により、各自動車メーカーの工場停止の影響が出ている。(自動車部品製造)
- 海外からの輸入において、コンテナ代の高騰などコスト増加となっている。(卸売業)
- 資材高騰、設備不足による工期遅延が発生している。(建設業)



浜松地域の経済動向

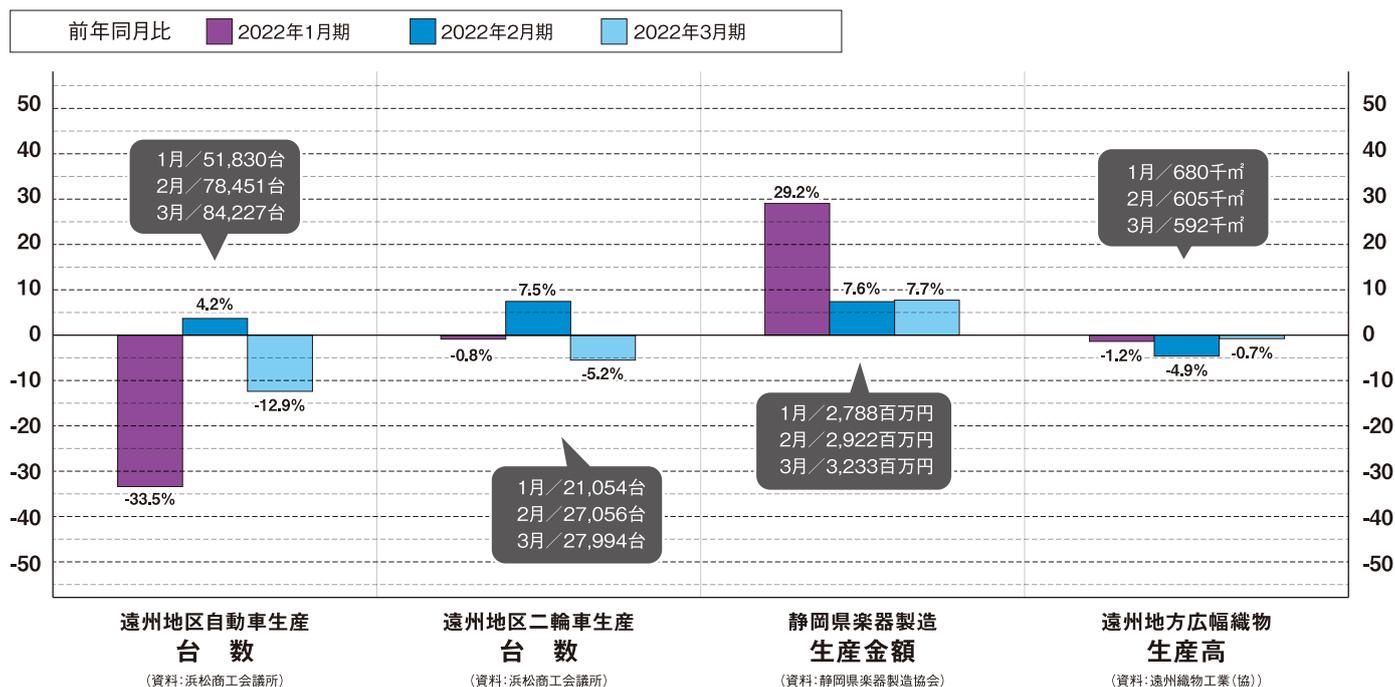
2022年3月を中心に

ガソリン価格の上昇や円安の進行、供給面の制約などで、経済活動の下振れリスクが高まる。

自動車・二輪車の生産台数は半導体不足の影響もあり、需要に生産が追い付かない状態となっている。運輸・観光業では、まん延防止等重点措置が3月21日まで延長された影響が大きく、タクシー乗車延人員、ホテル稼働率は前年同月を下回った。新築住宅着工件数は前年同月を下回った。ガソリン価格の上昇は止まらず、2カ月連続で170円を超える高値となった。為替相場では、3カ月連続で前月より円安となるなど円安の進行が止まっていない。今後、物価への影響が懸念される。堅調に推移していた浜松管内の雇用情勢は有効求人倍率が全国、静岡県を下回るなど陰りが見え始めている。



① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2022年3月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比12.9%減の8.4万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は7.5%減、小型四輪車は33.0%減、普通自動車は82.7%増となった。国内向けは11.4%減、輸出は18.0%減であった。2カ月ぶりに、国内向け、輸出両方が前年同月を下回り、輸出は5カ月連続で前年同月を下回った。納車待ちが発生するなど需要は旺盛であるが、深刻な半導体不足や、原材料価格の上昇が自動車生産に影響を与えている。

二輪車



2022年3月における二輪車生産台数は前年同月比5.2%減の2.7万台となった。国内向けは4.9%減、輸出は5.3%減であった。国内向けは5カ月ぶりに前年同月を下回った。排気量別では、50cc以下15.8%減、51cc～125cc以下81.8%増、126cc～250cc以下1.6%増、251cc以上11.4%減であった。二輪車も自動車と同様に半導体不足、原材料価格の上昇、新型コロナウイルス感染拡大による部品供給、物流の混乱の影響を受けている。

楽器



2022年3月における生産金額は前年同月比7.7%増の32.3億円となった。分野別に3月の生産金額を見てみると、ピアノ6.4%減、電子・電気ピアノ64.8%増、電子オルガン12.5%減、管楽器18.6%増となった。生産金額は12カ月連続で前年同月を上回っている。また、3月は生産金額が4カ月ぶりに30億円を超えるなど、生産金額は順調に推移している。

繊維



2022年3月の生産高は前年同月比0.7%減の592千㎡となった。3カ月連続で前年同月を下回った。アパレル向けの生地需要の低迷が続いている中、綿糸等原材料価格の高騰で業況は厳しい状況となっている。また、電気代上昇による生産コスト、ガソリン価格の上昇による物流コストの上昇も収益を圧迫する要因となっている。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年3月におけるタクシー乗車人員は前年同月比7.1%減の24.5万人となった。まん延防止等重点措置期間が3月21日まで再延長されていたことから期間内はほとんど休業状態であった。解除後は大幅な利用客の増加を期待したが、週末以外は期待したほどではなかった。

観光

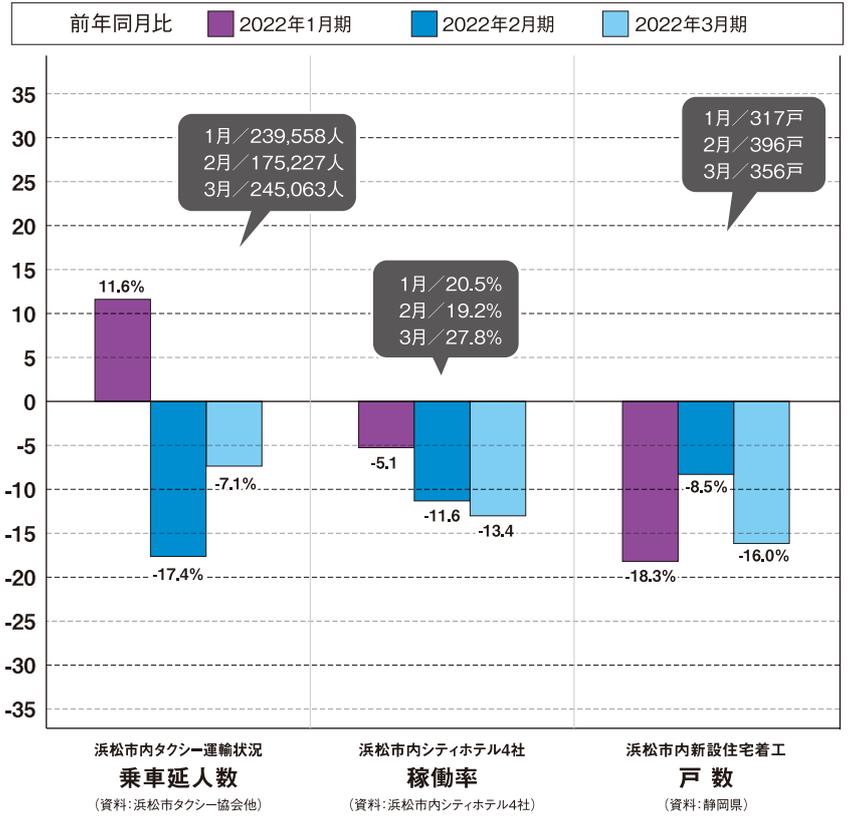


3月の浜松市内ホテルの稼働率は、前年同月より13.4ポイント低い27.8%であった。5カ月連続で前年同月稼働率を下回った。コンサートなどが開催され稼働率が高い日もあったが、21日までは稼働率の低い日が多かった。まん延防止等重点措置が再延長されたことが大きく稼働率に影響した。

住宅着工



2022年3月における浜松市の新設住宅着工戸数は、前年同月比16.0%減の356戸となった。前年同月を68戸下回った。前月との比較でも40戸下回った。持家は前年同月比4戸増、貸家は71戸減、分譲住宅は2戸減であった。静岡県全体の住宅着工戸数は前年同月を83戸上回る1,731戸であった。浜松市内住宅着工件数は4カ月連続で前年同月を下回った。静岡市との比較では前年3月は163戸上回っていたが、今年3月は32戸下回った。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年3月の有効求人倍率は1.20倍と9カ月連続で1倍を上回った。前年同月との比較では0.16ポイント上回ったが、前月との比較では0.02ポイント下回った。全国(1.22)との比較では0.02ポイント、静岡県(1.24)との比較では0.04ポイント下回った。回復傾向にあった浜松管内の雇用情勢に陰りが見え始めている。

倒産企業



2022年3月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は4件、負債総額は7.2億円となった。前月より3件増加した。前年同月との比較では、2件減少したが負債総額は2.2億円増加した。静岡県全体の倒産件数は14件で前年同月より6件減少した。

ガソリン価格

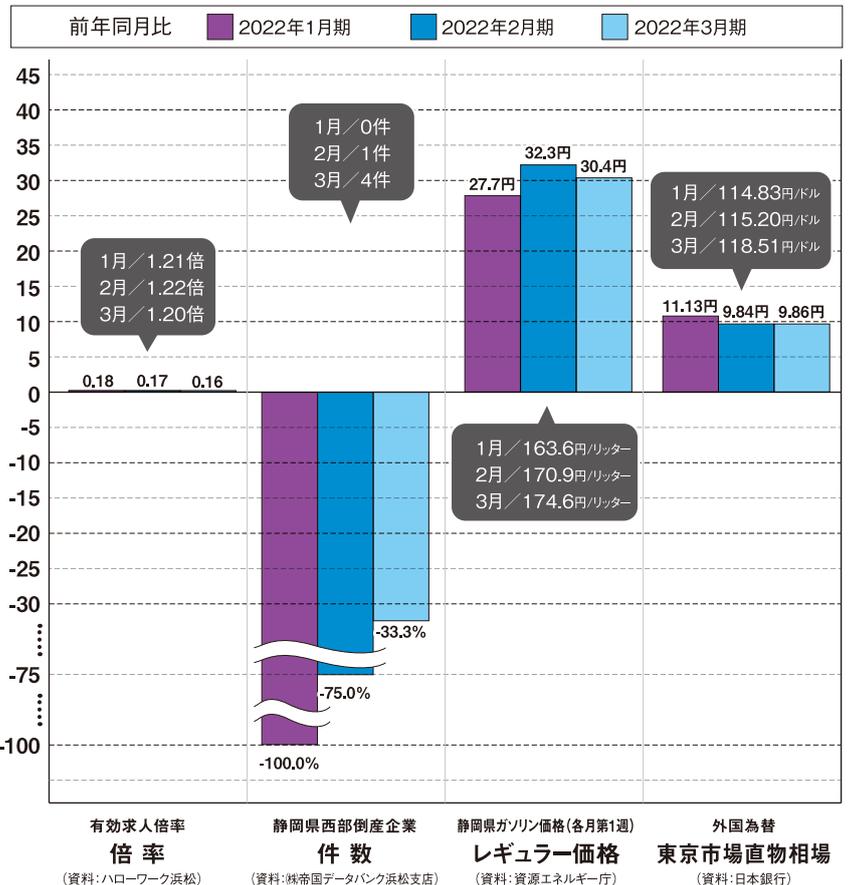


2022年3月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり174.6円となった。前年同月と比較すると30.4円上昇した。前月との比較でも3.7円上昇した。コロナ禍の鎮静化で世界的に需要が回復してきているが、産油国ロシアとウクライナとの紛争の影響もあり高値が続いている。ガソリン価格の上昇は、企業収益、家計への影響が大きいいため、3月に入り、政府はガソリン価格を抑制する補助金の上限額引き上げを決定した。

外国為替



2022年3月の外国為替は1ドル118.51円、前年同月と比較すると9.86円の円安となった。前月との比較でも3.31円の円安となっている。円安の要因としては、ウクライナ紛争による資源価格の上昇、米国の相次ぐ利上げによる日本との金利格差の影響などにより3カ月連続で前月より円安となるなど、円安傾向が続いている。



浜松地域の経済動向

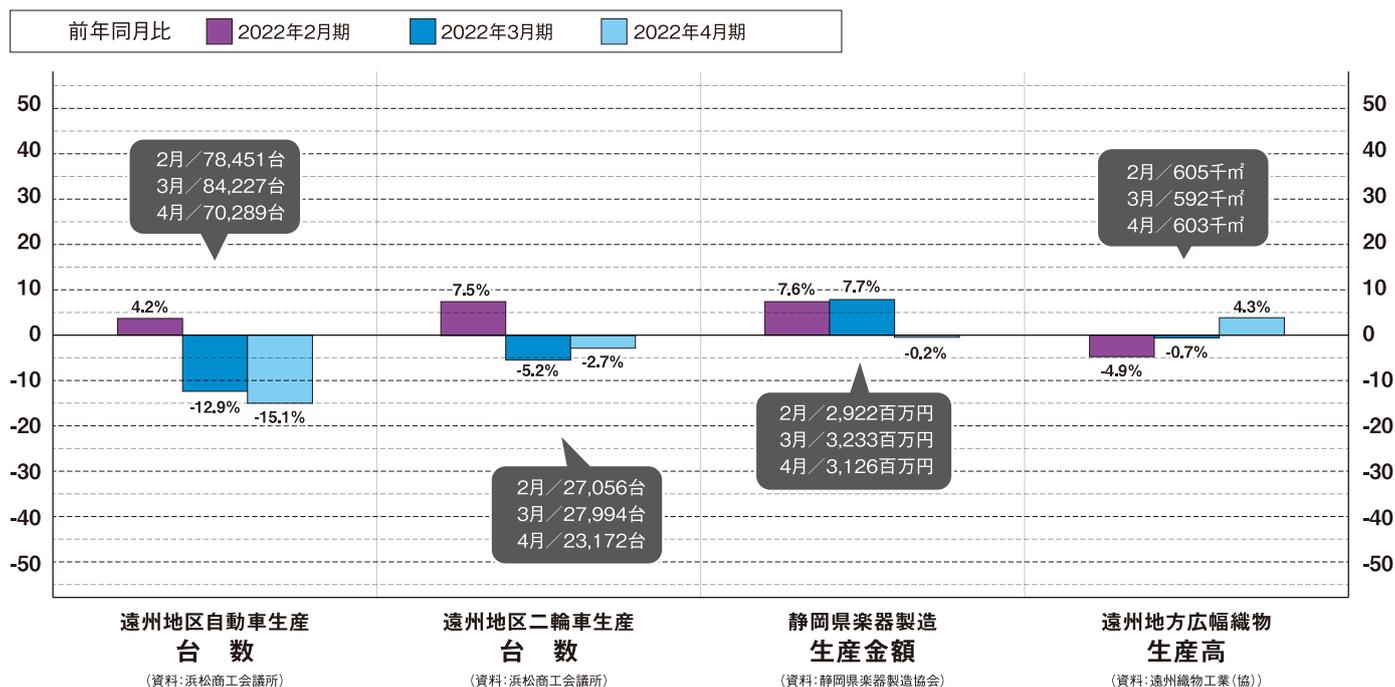
2022年4月を中心に

景気は持ち直しつつあるが、半導体不足による供給面での制約、原材料高などにより、一部に弱さが見られる。



自動車、二輪車の生産台数は半導体不足と原材料価格高騰の影響もあり減産となったが、需要は多く、納車が長期化している。まん延防止等重点措置の解除で、運輸・観光は少しずつではあるが改善の兆しが見え始めた。堅調に推移していた浜松管内の雇用情勢は、2カ月連続で全国および静岡県を下回った。4月の企業倒産件数は、前月、前年同月を上回った。ガソリン代は170円台で高止まりしている。円安がさらに進行しており、原材料費や燃料費の上昇による物価への影響が懸念される。

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2022年4月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比15.1%減の7.0万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は11.7%減、小型四輪車は26.1%減、普通自動車は13.2%増となった。国内向けは22.7%減、輸出は14.4%増であった。先月に引き続き、国内向けは前年同月を下回り、輸出については6カ月ぶりに前年同月を上回った。依然、半導体不足と原材料価格の高騰が自動車生産に影響を与え、先行き不透明な状況が続いている。

二輪車



2022年4月における二輪車生産台数は前年同月比2.7%減の2.3万台となった。国内向けは5.6%減、輸出は2.3%減であった。国内向け、輸出ともに2カ月連続で前年同月を下回った。排気量別では、50cc以下12.2%増、51cc~125cc以下21.1%増、126cc~250cc以下43.1%増、251cc以上12.7%減であった。二輪車も自動車と同様に半導体不足、原材料価格高騰の影響を受けている。

楽器



2022年4月における生産金額は前年同月比0.2%減の31.2億円となった。分野別に4月の生産金額を見てみると、ピアノ3.8%減、電子・電気ピアノ118.9%増、電子オルガン84.2%増、管楽器9.0%増となっている。先月に引き続き30億円超えとなり、需要は底堅く堅調に推移している。

繊維



2022年4月の生産高は前年同月比4.3%増の603千㎡となった。4カ月ぶりに前年同月を上回った。コロナ禍から人の流れが戻り、経済活動が正常化しつつある中で、衣料品向けの生地需要の回復が期待される。しかし、綿糸を筆頭に原材料価格の上昇、エネルギーコストの上昇が生産活動を圧迫している。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年4月におけるタクシー乗車人員は前年同月比14.9%増の28.6万人となった。まん延防止等重点措置が3月21日で解除され、買い物での利用者、病院の送迎などのお客さまが戻ってきている。

観光

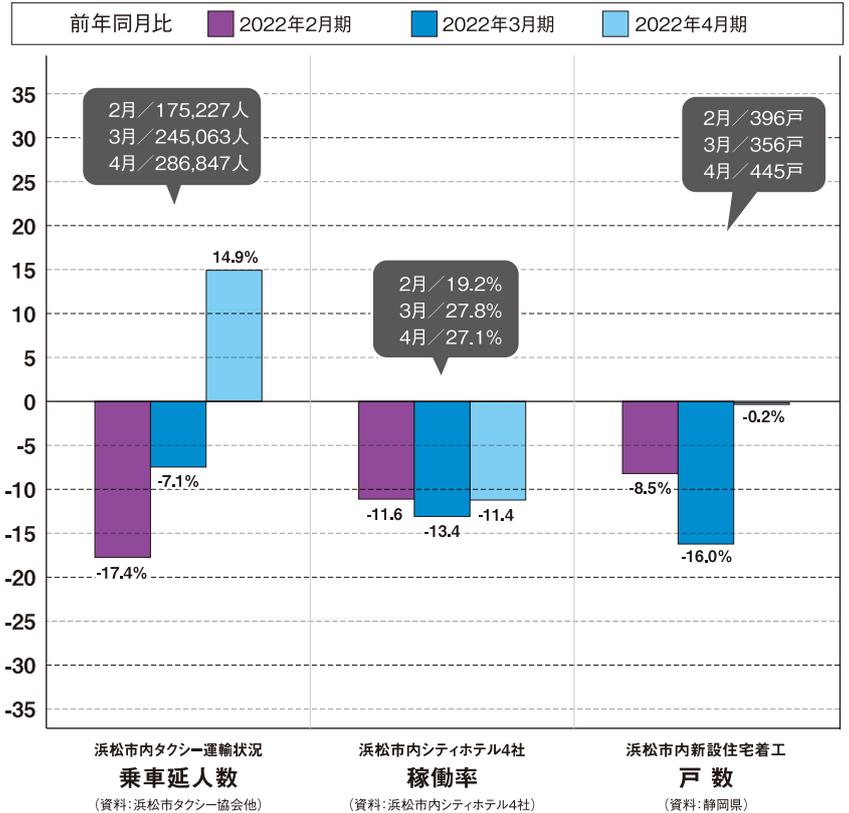


4月の浜松市内ホテルの稼働率は、前年同月より11.4ポイント低い27.1%であった。6カ月連続で前年同月稼働率を下回った。まん延防止等重点措置の解除で、スポーツ大会などが開催されるようになり、少しずつではあるが回復の兆しがみられる。「今こそしずおか元気旅」の影響もあり、比較的予約は伸びたが、週末に集約される傾向がみられた。

住宅着工



2022年4月における浜松市の新設住宅着工件数は、前年同月比0.2%減の445戸となった。持家・貸家では減少するも、分譲住宅(マンションを含む)が62戸の増加となり、全体では前年同月とほぼ同水準の着工件数であった。静岡県全体では225戸減少で前年同月比11.6%のマイナスであり、持家の着工が17.0%と減少が大きくなっている。静岡市も14.3%のマイナスであったなど、住宅着工の動きは鈍くなっている。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年4月の有効求人倍率は1.15倍となった。前年同月との比較では0.19ポイント上回った。前月との比較では0.05ポイント下回った。2カ月連続で前月を下回った。全国(1.23)との比較では0.08ポイント、静岡県(1.27)との比較では0.12ポイント下回った。

倒産企業



2022年4月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は9件、負債総額は14.5億円となった。前年同月との比較では倒産件数は1件増加した。前月との比較では5件増加した。静岡県全体の倒産件数は18件で、前年同月より5件減少したが、前月からは4件増加した。新型コロナウイルス感染症の影響が残るなか、原材料費や燃料費の高騰が続いており、今後の倒産件数増加が懸念される。

ガソリン価格

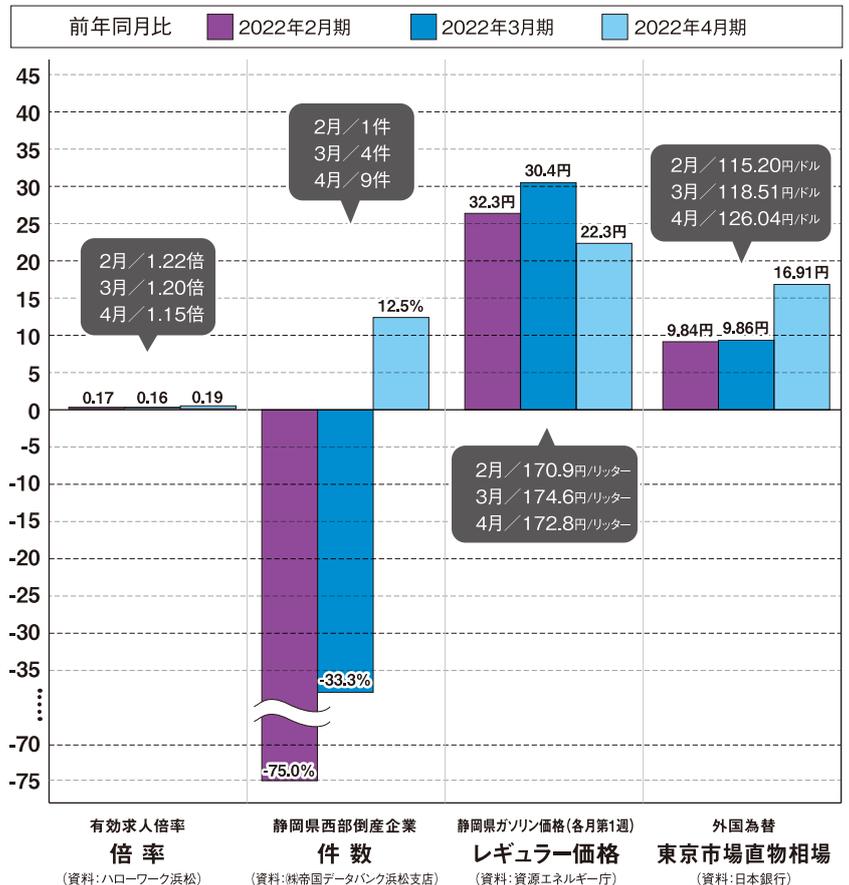


2022年4月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり172.8円となった。前年同月との比較では、22.3円上昇した。前月との比較では1.8円低下した。燃料価格激変緩和補助金の上限引き上げもあり、上昇は抑えられているものの、産油国の増産が進まず、3カ月連続で170円台での高止まりが続いている。

外国為替



2022年4月の外国為替は1ドル126.04円、前年同月と比較すると16.91円の大幅な円安となった。前月との比較でも7.53円の円安であった。米国の利上げにより日米金利差が拡大し金利の高いドルのニーズが高まっている。急激な円安進行による輸入物価上昇が懸念される。



浜松地域の経済動向

2022年5月を中心に

半導体不足、原材料費および燃料費の高騰により製造業は足踏み状態となっている。非製造業は小幅ながら業況は改善した。

製造業は半導体不足、上海市ロックダウンによる物流の停滞、原材料費および燃料費高騰により足踏み状態となっている。非製造業では、まん延防止等重点措置が解除されたこともあり、浜松市内ホテル稼働率は7カ月ぶりに前年同月を上回った。

円安が続いておりガソリン価格は170円前後で高止まっている。

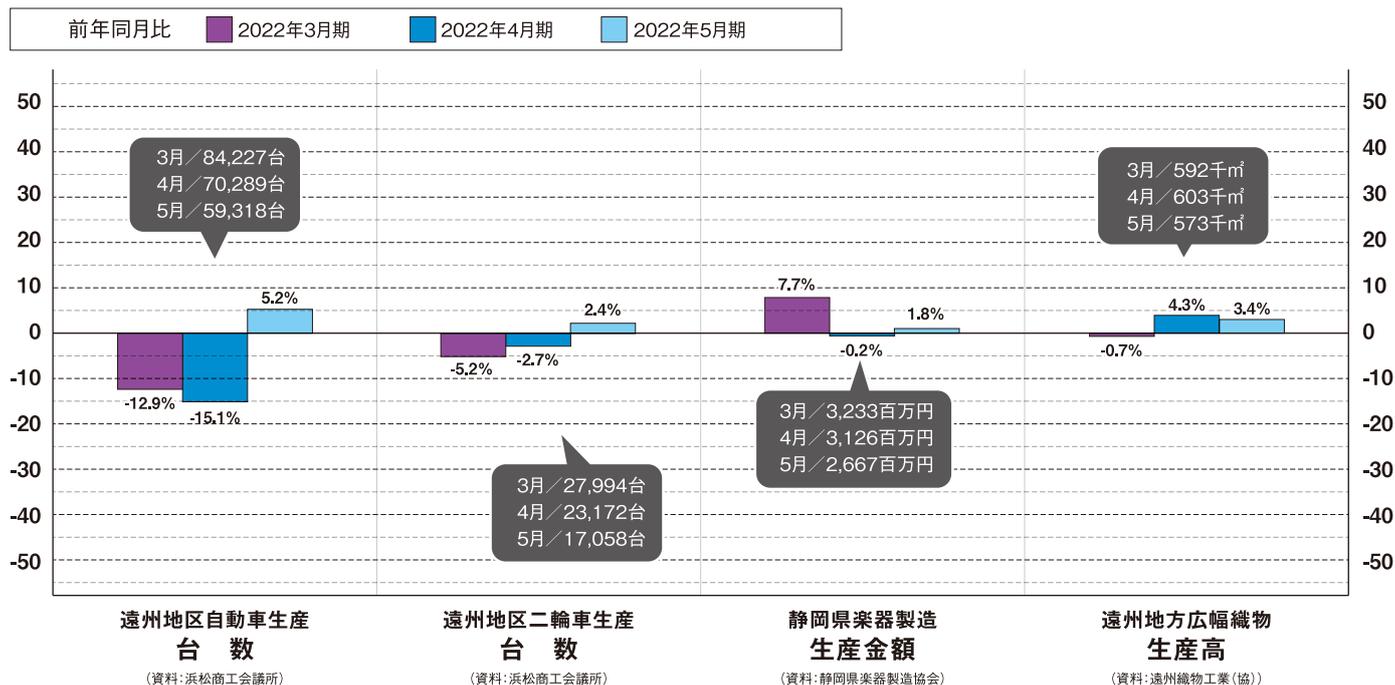
今後も燃料費や原材料費の上昇が続けば上昇分を価格転嫁できない企業の収益悪化が懸念される。

2022.

8月

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2022年5月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比5.2%増の5.9万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は3.6%増、小型四輪車は3.2%増、普通自動車は96.1%増となった。国内向けは0.3%増、輸出は19.7%増と全ての項目で増加となったが、現状においては依然半導体不足と原材料価格の高騰が自動車生産に影響を与えているため、新型コロナウイルスが流行する前の水準には回復していない。

二輪車



2022年5月における二輪車生産台数は前年同月比2.4%増の1.7万台となった。国内向けは63.7%増、輸出は4.9%減であった。国内向けは大幅に増加したが、輸出は3カ月連続で前年同月を下回った。排気量別では、50cc以下18.6%減、51cc～125cc以下31.2%増、126cc～250cc以下20.7%減、251cc以上5.1%増であった。国内需要は活発であるが二輪車の生産についても自動車と同様に半導体不足と原材料価格高騰の影響を受けている。

楽器



2022年5月における生産金額は前年同月比1.8%増の26.6億円となった。分野別に前年同月と比較してみると、ピアノ9.8%減、電子・電気ピアノ1.2%増、電子オルガン51.5%減、管楽器31.8%増となっている。楽器生産金額は2カ月連続で30億円を超えていたが、5月はGWもあり割り込む結果となった。

繊維



2022年5月の生産高は前年同月比3.4%増の573千㎡となった。2カ月連続で前年同月を上回った。コロナ禍が緩和し、産地内の工場ではアパレルメーカーなどからの問い合わせが増え、回復の兆しが見え始めている。一方、原材料費や電気料金、物流費の上昇など製造コストの上昇を生地価格に転嫁できず、厳しい状況にある。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年5月におけるタクシー乗車人員は前年同月比25.9%増の29.4万人となった。行動制限のないゴールデンウィークとなり、浜松まつりの送迎、買物での利用者、病院の送迎などのお客さまが戻り始めた。

観光

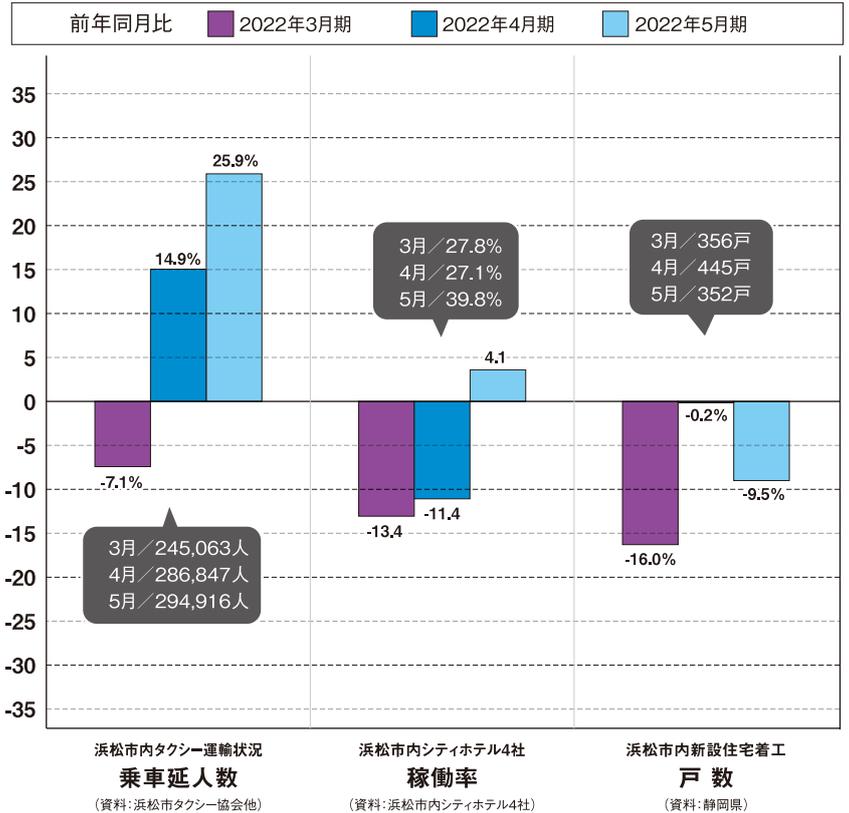


5月の浜松市内ホテルの稼働率は、前年同月より4.1ポイント高い39.8%であった。7カ月ぶりに前年同月稼働率を上回った。まん延防止等重点措置の解除で行動制限が緩和され、国内旅行などでホテル利用が少しずつではあるが増えている。

住宅着工



2022年5月における浜松市の新設住宅着工件数は、前年同月比9.5%減の352戸となった。持家は増加するも、貸家が36戸の減少となり、全体では前年同月比37戸の減少であった。静岡県全体でも188戸の減少で前年同月比10.5%のマイナスであり、貸家の着工が158戸の減少であったことが響いている。住宅着工の動きは鈍くなっていると言える。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年5月の有効求人倍率は1.10倍となった。前年同月との比較では0.13ポイント上回ったが、前月との比較では0.05ポイント下回った。3カ月連続で前月を下回った。全国(1.24)との比較では0.14ポイント、静岡県(1.28)との比較では0.18ポイント下回った。

倒産企業



2022年5月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は6件、負債総額は5.6億円となった。前年同月との比較では倒産件数は4件増加した。前月との比較では3件減少した。静岡県全体の倒産件数は21件で、前年同月より7件増加した。今後、高騰している燃料費や原材料費を価格転嫁できない中小企業の収益悪化による倒産が懸念される。

ガソリン価格

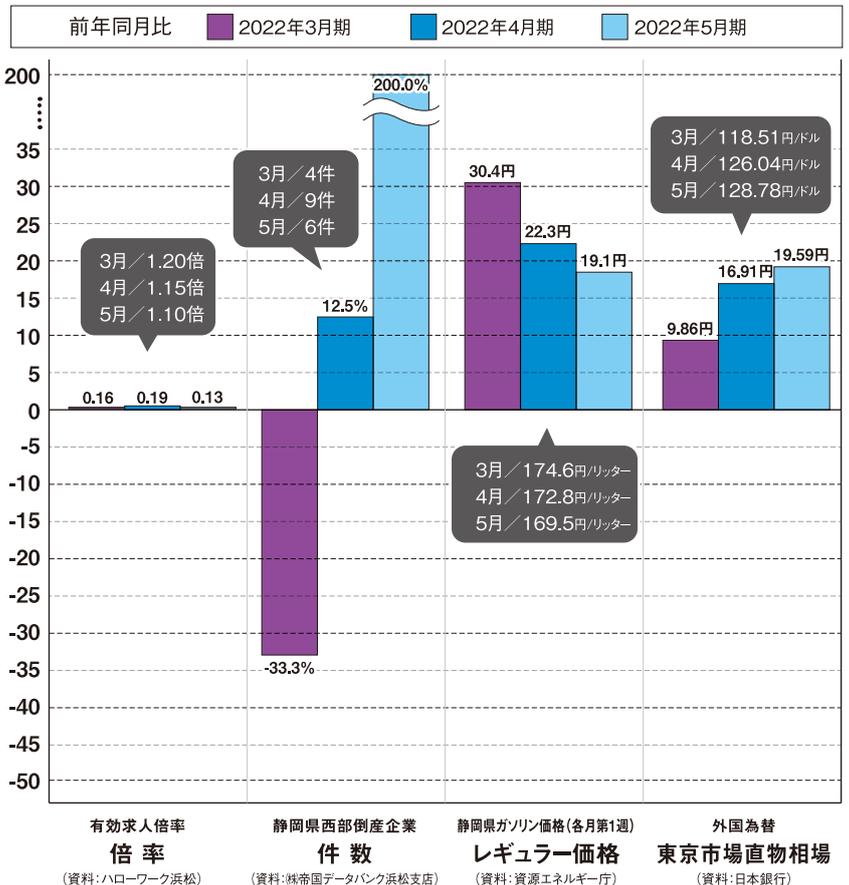


2022年5月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり169.5円となった。前年同月との比較では19.1円の上昇であった。前月との比較では3.3円下降した。円安が続いており、産油国の増産も進んでおらず、ガソリン価格は高止まりとなっている。

外国為替



2022年5月の外国為替は1ドル128.78円、前年同月と比較すると19.59円の大幅な円安となった。前月との比較でも2.74円の円安であった。5カ月連続で前月より円安となっている。円安進行が原材料価格上昇の一因になっており、企業収益に大きな影響を与えている。



原材料価格の高騰続くも、まん延防止等重点措置の解除により業況DI改善

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数は、
2四半期振りに改善したものの、緩やかな改善にとどまり、
引き続き厳しい状況が続いている。

※業況判断指数……景況判断の基準としてDI(Diffusion Index)による分析で、各質問項目のプラス傾向割合からマイナス傾向割合を差し引いた数値のこと

	全体			うち小規模事業者				
	調査数	業況			調査数	業況		
		前期	今期	見通し		前期	今期	見通し
全体	617				257			
二輪車部品製造	55				20			
自動車部品製造	75				21			
機械部品製造	53				28			
楽器部品製造	19				14			
繊維製造	23				18			
卸売業	76				28			
小売業	60				28			
建設業	70				12			
不動産業	44				32			
飲食・宿泊・レジャー等	22				「2022年4月～6月期中小企業景気動向調査」より 浜松市内の中小企業を対象に、業況判断・売上高・経常利益等の DI値を、四半期毎に産業別・地域別等に算出する景気動向調査です。 経営者へのヒアリングをベースに算出しています。			

調査で聞き取ったコメント

※意見の多かったものを抜粋して掲載しています。

- 原材料の仕入価格が上昇し、利幅が減少している。(二輪車部品製造)
- 補助金を利用した案件の見積もりが増えている。(機械部品製造)
- バックオーダーはあるが、販売車両の不足で売上に結びつかない。(自動車販売)
- まん延防止等重点措置の解除後は、売上が徐々に回復している。(飲食)



浜松地域の経済動向

2022年6月を中心に

製造業で供給面での制約が残るが需要は堅調で、
全体では緩やかに持ち直しつつある。

自動車、二輪車生産台数は半導体不足など供給面での制約が残るが堅調に推移した。

楽器生産金額は2カ月振りに30億円を超えた。

運輸・観光では、「今こそ しずおか 元気旅」効果で個人客は順調に推移したが、ビジネス、団体客は伸び悩んだ。

雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。レギュラーガソリン価格は依然160円台後半で推移している。

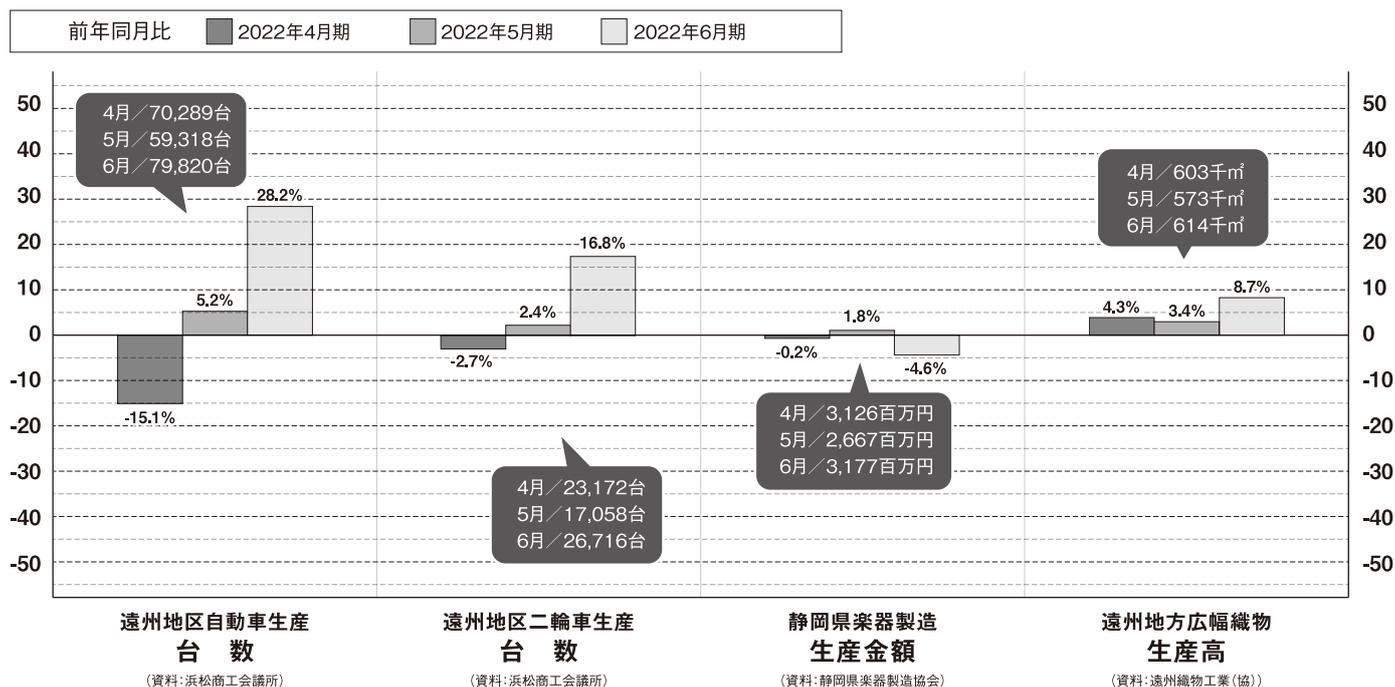
急激に円安が進んでいる。倒産件数に目立った変化はない。エネルギー価格および原材料価格高騰の影響が懸念される。

2022.

9
月

2022年9月発行
発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2022年6月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比28.2%増の7.9万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は14.8%増、小型四輪車は59.7%増、普通自動車は487.2%増となった。国内向けは15.3%増、輸出は73.6%増と全ての項目で増加となった。足元において、半導体不足の長期化や中国・上海市でのロックダウンは部品の供給不足を招き、先行き不安は拭えない。

二輪車



2022年6月における二輪車生産台数は前年同月比16.8%増の2.6万台となった。国内向けは16.5%減、輸出は23.5%増であった。排気量別では、50cc以下47.0%減、51cc～125cc以下116.0%増、126cc～250cc以下36.4%減、251cc以上38.6%増であった。国内向けは5カ月連続で前月を上回っており、需要は活発である。

楽器



2022年6月における生産金額は前年同月比4.6%減の31.7億円となった。分野別に前年同月と比較してみると、ピアノ7.9%減、電子・電気ピアノ33.5%増、電子オルガン52.3%減、管楽器5.8%増となっている。楽器生産金額は2カ月振りに30億円を超え、需要は底堅く堅調に推移している。

繊維



2022年6月の生産高は前年同月比8.7%増の614千㎡となった。3カ月連続で前年同月上回り、コロナ禍の生産減から脱する兆しが少しずつ見え始めている。ただ、稼働状況は工場によって差が出ており、直接販売を手掛ける工場は高い稼働率を維持しているが、問屋からの受注に依る工場は受注が少なく低い稼働率となっている。

浜松地域の経済動向

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年6月におけるタクシー乗車人員は前年同月比20.6%増の29.6万人となった。ホテルの催事、出張、買い物、病院送迎などでの利用が増加した。例年、利用客の多い大規模イベントは中止になったものが多く乗車人員に影響した。乗車人員はコロナ禍前の水準には戻っていない。

観光

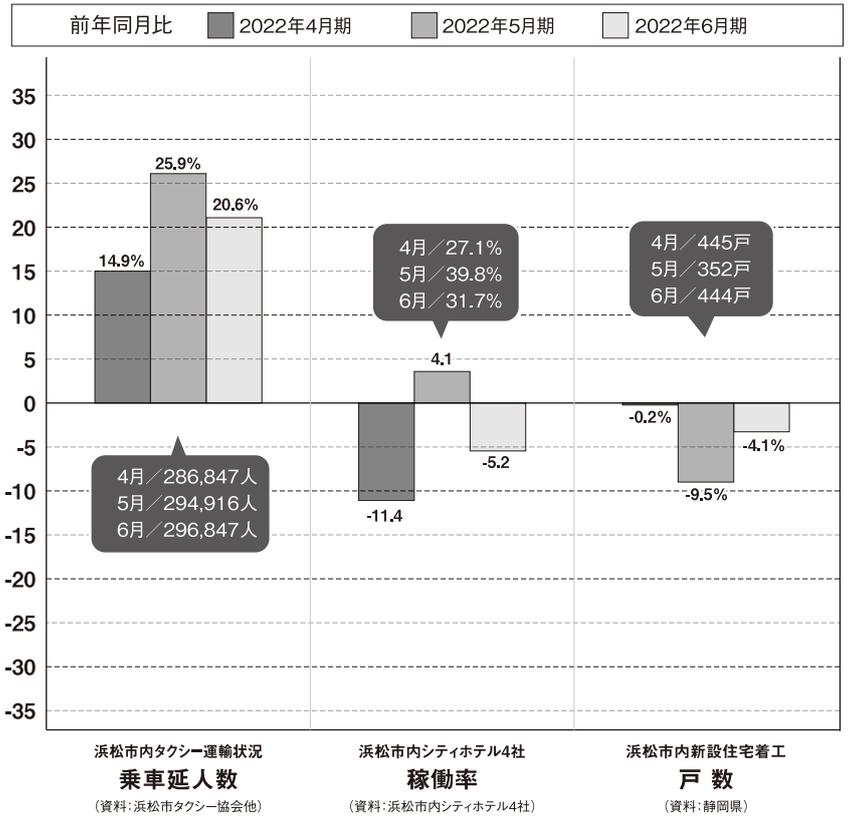


6月の浜松市内ホテルの稼働率は31.7%で、前年同月比-5.2ポイントであった。個人宿泊客は「今こそしずおか元気旅」の影響で順調であったが、ビジネスでの利用客は少なかった。団体客は定例開催イベントの規模縮小により伸び悩んだ。

住宅着工



2022年6月における浜松市の新設住宅着工件数は、前年同月比19戸減(4.1%減)の444戸となった。内訳をみると、持家は同戸数、貸家53戸減少、分譲住宅は17戸増加であった。貸家は大幅に減少した。静岡県全体では1,748戸で前年同月比83戸減少した。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年6月の有効求人倍率は1.11倍となった。前年同月との比較では0.12ポイント上回った。前月との比較では0.01ポイント上回った。全国(1.27)との比較では0.16ポイント、静岡県(1.31)との比較では0.20ポイント下回った。4カ月ぶりに前月の有効求人倍率を上回るなど雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。

倒産企業



2022年6月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は4件、負債総額は1.2億円となった。前年同月との比較では倒産件数は4件減少し、前月との比較では2件減少した。静岡県全体の倒産件数は15件で、前年同月より2件減少した。エネルギー価格および原材料の仕入れ価格高騰による企業収益への悪影響が懸念される。

ガソリン価格

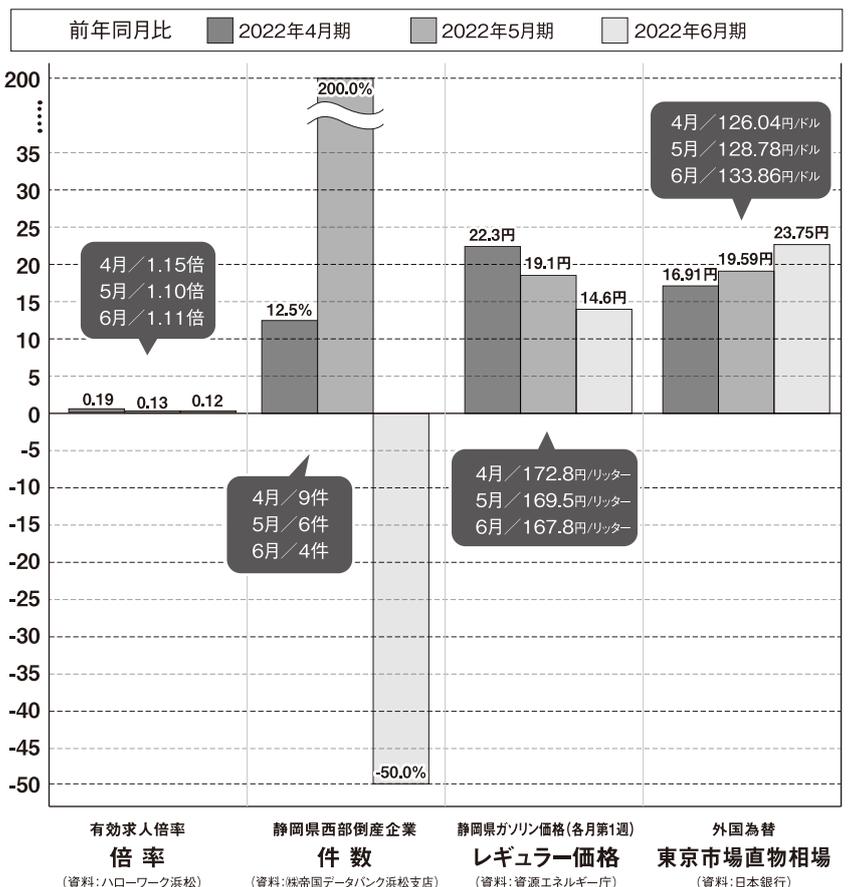


2022年6月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり167.8円となった。前年同月との比較では14.6円の上昇であった。前月との比較では1.7円下降した。3月まで値上がりが続いていたガソリン価格も3カ月連続で前月を下回るなど幾分落ち着きを見せてきてはいるが依然として170円近い高値となっている。

外国為替



2022年6月の外国為替は1ドル133.86円、前年同月と比較すると23.75円の円安となった。急激なスピードで円安が進んでおり、6月は前月より5.08円の大幅な円安となった。日米金利差は拡大傾向にあり、今後さらなる円安が懸念される。



浜松地域の経済動向

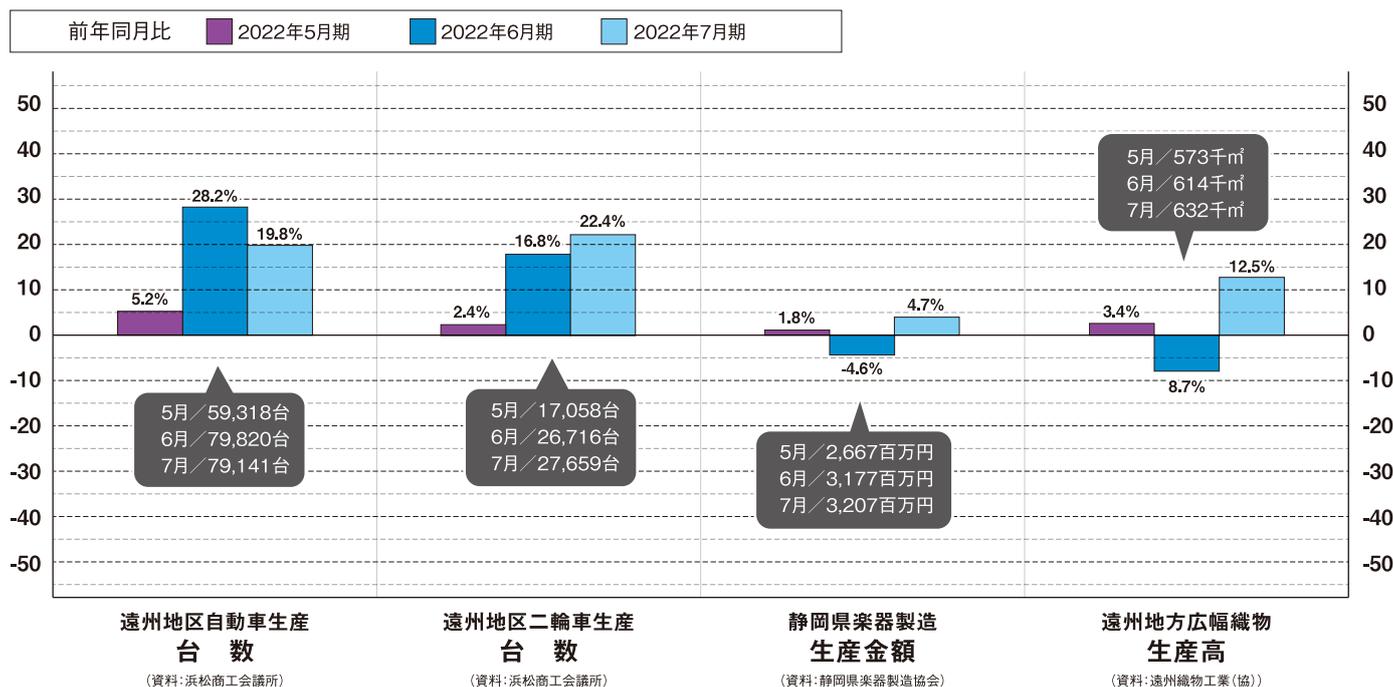
2022年7月を中心に

新型コロナ感染再拡大の影響はあるが、
全般的には景気は持ち直しつつある。

7月は新型コロナ感染再拡大で部品供給に支障が出たものの、自動車、二輪車の生産台数、楽器生産金額、繊維生産高全てで前年同月を上回り堅調に推移した。
運輸・観光業では、新型コロナ感染再拡大の影響もありホテル稼働率は前年同月を下回った。
主要経済指標の一つである有効求人倍率は前月、前年同月を上回ったが、静岡県、全国を下回った。
ガソリン価格は170円台の高値となっており、為替相場は7カ月連続で前月を上回る円安となった。
原材料価格、光熱費、物流コスト高騰による景気への影響が懸念される。



① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2022年7月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比19.8%増の7.9万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は6.8%増、小型四輪車は54.3%増、普通自動車は264.4%増となった。国内向けは5.4%増、輸出は76.8%増と全ての項目で増加となった。前年の落ち込みが大きかった反動で増加に転じているが、新型コロナの感染再拡大で部品供給に支障が出ている。

二輪車



2022年7月における二輪車生産台数は前年同月比22.4%増の2.7万台となった。国内向けは40.5%減、輸出は38.9%増であった。排気量別では、50cc以下52.3%増、51cc～125cc以下74.1%増、126cc～250cc以下53.3%増、251cc以上6.6%増であった。二輪車生産台数は2カ月連続で前月を上回っており、需要は活発である。

楽器



2022年7月における生産金額は前年同月比4.7%増の32.0億円となった。分野別に前年同月と比較してみると、ピアノ3.1%増、電子・電気ピアノ17.6%減、電子オルガン35.5%減、管楽器4.6%増となっている。楽器生産金額は前月に引き続き30億円超えとなり、需要は底堅く堅調に推移している。

繊維



2022年7月の生産高は前年同月比12.5%増の632千㎡となった。4カ月連続で前年同月を上回り、コロナ禍の生産減から脱する兆しが少しずつ見え始めている。しかし、原材料の高騰により、価格の高い糸を使わなければならない、電気料や輸送料金などのコスト高が続くことに加え、物価高による衣料品の買い控えも予想され、厳しい状況は変わらない。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年7月におけるタクシー乗車人員は前年同月比11.3%増の30.8万人となった。ホテルの催事、出張、買い物、病院送迎などでの利用は多いが、7月中旬から新型コロナウイルス感染が再拡大し、浜松でも感染者が1,000人を超えたとの報道がされると、戻りつつあった客足がまた減ってきてしまっている。

観光

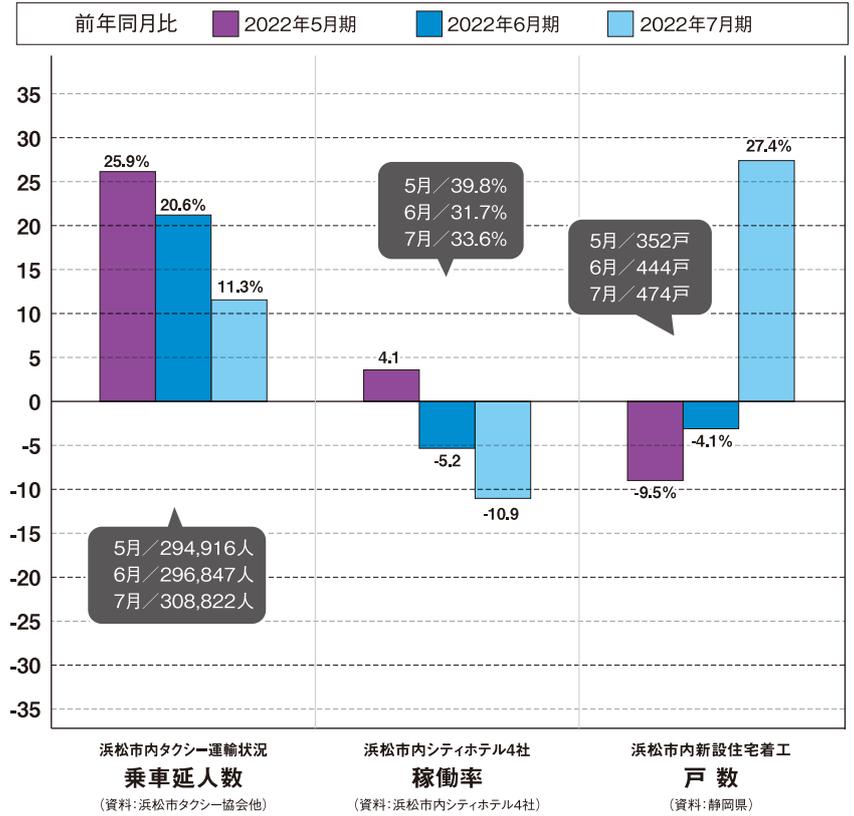


7月の浜松市内ホテルの稼働率は33.6%で、前年同月比-10.9ポイントであった。個人宿泊客は「今こそ しずおか 元気旅」の継続で順調であったが、ビジネスでの利用客は、新型コロナウイルス感染の再拡大の影響で伸び悩む状況となった。団体客は、学生スポーツ大会が中止されずに開催されたので、そのまま受注できた。

住宅着工



2022年7月における浜松市の新設住宅着工件数は、前年同月比102戸増(27.4%増)の474戸となった。内訳をみると、持家は17戸増加、貸家103戸増加、分譲住宅は19戸減少であった。貸家は大幅に増加した。静岡県全体では1,852戸で前年同月比220戸増加した。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年7月の有効求人倍率は1.16倍となった。前年同月との比較では0.08ポイント、前月との比較では0.05ポイント上回った。全国(1.29)との比較では0.13ポイント、静岡県(1.31)との比較では0.15ポイント下回った。2カ月連続で前月の有効求人倍率を上回り雇用情勢は改善傾向となっているが、5カ月連続で、全国、静岡県を下回っており浜松管内の改善のスピードは遅くなっている。

倒産企業



2022年7月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は4件、負債総額は0.6億円となった。前年同月との比較では倒産件数は2件増加した。静岡県全体の倒産件数は6件で、前年同月より7件減少した。新型コロナウイルス感染再拡大や原材料価格、光熱費、物流コストの高騰、などによる倒産の増加が懸念される。

ガソリン価格

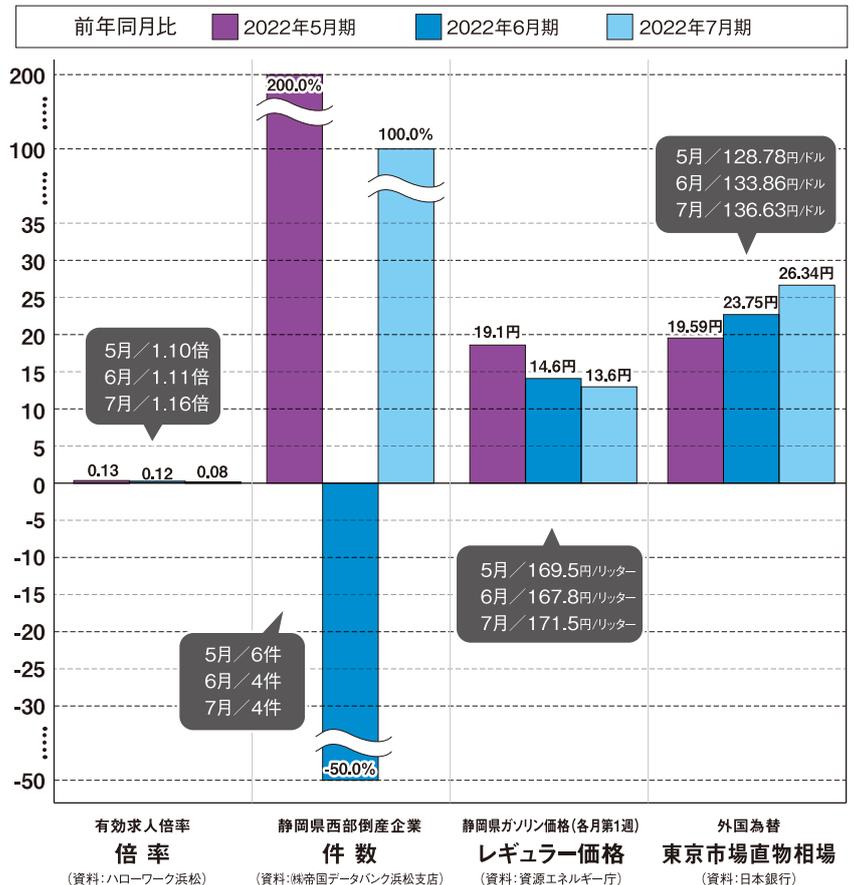


2022年7月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり171.5円となった。前年同月との比較では13.6円の上昇であった。前月との比較では3.7円上昇した。3カ月連続で前月を下回っていたが、7月は再び上昇に転じ3カ月ぶりの170円台となった。

外国為替



2022年7月の外国為替は1ドル136.63円、前年同月と比較すると26.34円の円安となった。7カ月連続で前月より円安となっており、円安の進行が止まらない状態となっている。円安進行による輸入物価高騰が懸念される。



浜松地域の経済動向

2022年8月を中心に

新型コロナ感染再拡大の影響を残しつつも景気は持ち直している。

製造業では、自動車、二輪車とも持ち直してきている。

タクシー乗車人員、ホテル稼働率は新型コロナ感染再拡大の影響もあり伸び悩んだ。

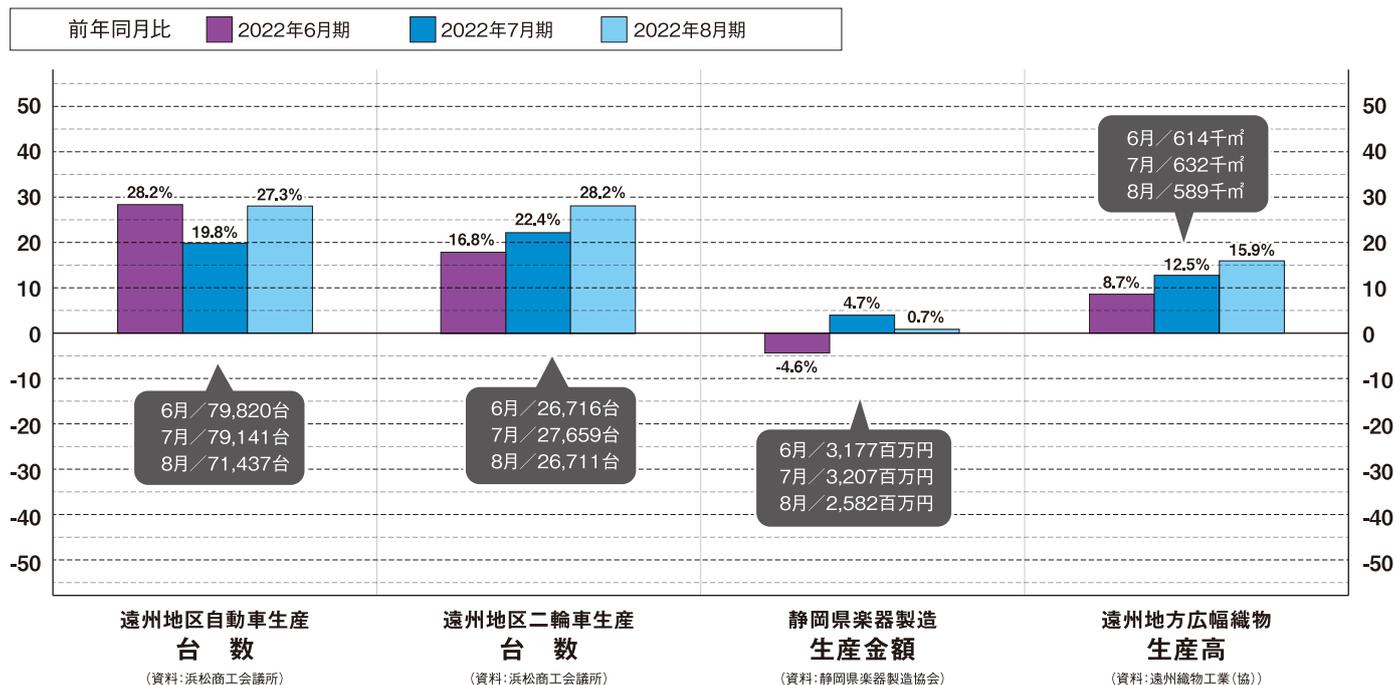
労働需給は改善傾向にあるものの、改善ペースは静岡県、全国より遅れている。

ガソリン価格は前月より低下したが依然として高値が続いている。為替相場は円安傾向が続いている。

倒産件数に大きな変化はないが、原材料価格、光熱費、物流コスト高騰の影響が出始めており、今後の倒産件数増加が懸念される。



① 製造業 (主要経済指標)



自動車



2022年8月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比27.3%増の7.1万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は12.9%増、小型四輪車は81.3%増、普通自動車は13.8%増となった。国内向けは22.8%増、輸出は40.4%増と全ての項目で増加となった。前年の落ち込みが大きかった反動で増加に転じている。8月の生産台数のみを見ればコロナ前の水準に戻りつつある。

二輪車



2022年8月における二輪車生産台数は前年同月比28.2%増の2.6万台となった。国内向けは12.8%減、輸出は38.2%増であった。排気量別では、50cc以下76.0%増、51cc～125cc以下0.7%増、126cc～250cc以下11.8%減、251cc以上31.6%増であった。二輪車生産台数は3カ月連続で2.5万台以上となり、需要は活発である。

楽器



2022年8月における生産金額は前年同月比0.7%増の25.8億円となった。分野別に前年同月と比較してみると、ピアノ8.5%減、電子・電気ピアノ8.6%減、電子オルガン1.4%増、管楽器14.2%増となっている。8月は休みが多いため前月と比較して6.2億円減少となった。

繊維



2022年8月の生産高は前年同月比15.9%増の589千㎡となった。5カ月連続で前年同月を上回り、コロナ禍の生産減から脱する兆しが少しずつ見え始めている。しかし、遠州産地の生地は、アパレル製品向けが多くを占めるだけに、物価高が進みアパレル製品に対する購買意欲が低下すれば、生地需要に跳ね返り本格的な回復が遠のくことになる。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年8月におけるタクシー乗車人員は、前年同月比40.7%増の28.3万人となった。ホテルの催事、出張、買い物、病院送迎などでの利用は横ばいで、行動制限はないものの7月中旬から新型コロナ感染が再拡大し、8月も感染者数が高止まりしたため、乗車人員は伸び悩んだ。

観光

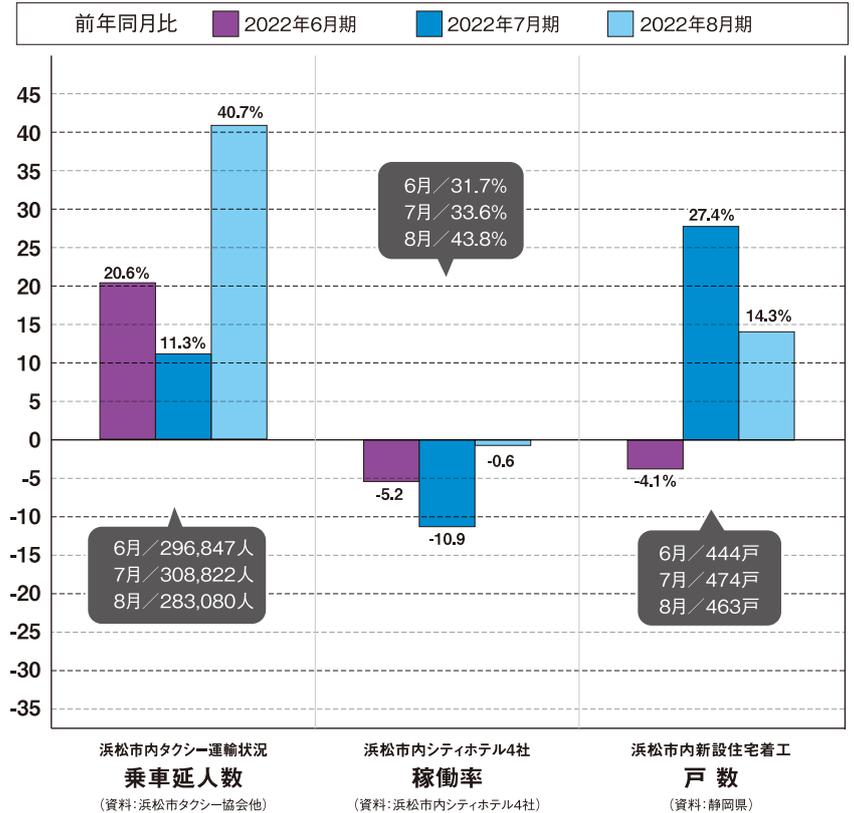


8月の浜松市内ホテルの稼働率は43.8%で、前年同月比-0.6ポイントであった。個人宿泊客は「今こそしずおか元気旅」の継続で、夏休み、お盆の時期は久しぶりに賑わったが、ビジネスでの利用客は、新型コロナ感染の再拡大の影響で伸び悩む状況となった。団体客は、規模は縮小になったものの、学生団体は大会が中止されずに開催されたので、そのまま受注できた。

住宅着工



2022年8月における浜松市の新設住宅着工件数は、前年同月比58戸増(14.3%増)の463戸となった。内訳を見ると、持家は11戸増加、貸家20戸増加、分譲住宅は22戸増加であった。静岡県全体では1,730戸で前年同月比63戸減少した。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年8月の有効求人倍率は1.21倍となった。前年同月との比較では0.10ポイント、前月との比較では0.05ポイント上回った。全国(1.32)、静岡県(1.32)との比較では0.11ポイント下回った。有効求職者数が減少傾向にあり、有効求人数は製造業を中心に増加傾向にあるが、6カ月連続で、全国、静岡県を下回っており浜松管内の改善のスピードは遅くなっている。

倒産企業



2022年8月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は5件、負債総額は6.9億円となった。前年同月との比較では倒産件数は2件増加した。静岡県全体の倒産件数は15件で、前年同月より5件増加した。徐々に原材料価格、光熱費、物流コストの高騰の影響が出始めており、倒産企業数増加が懸念される。

ガソリン価格

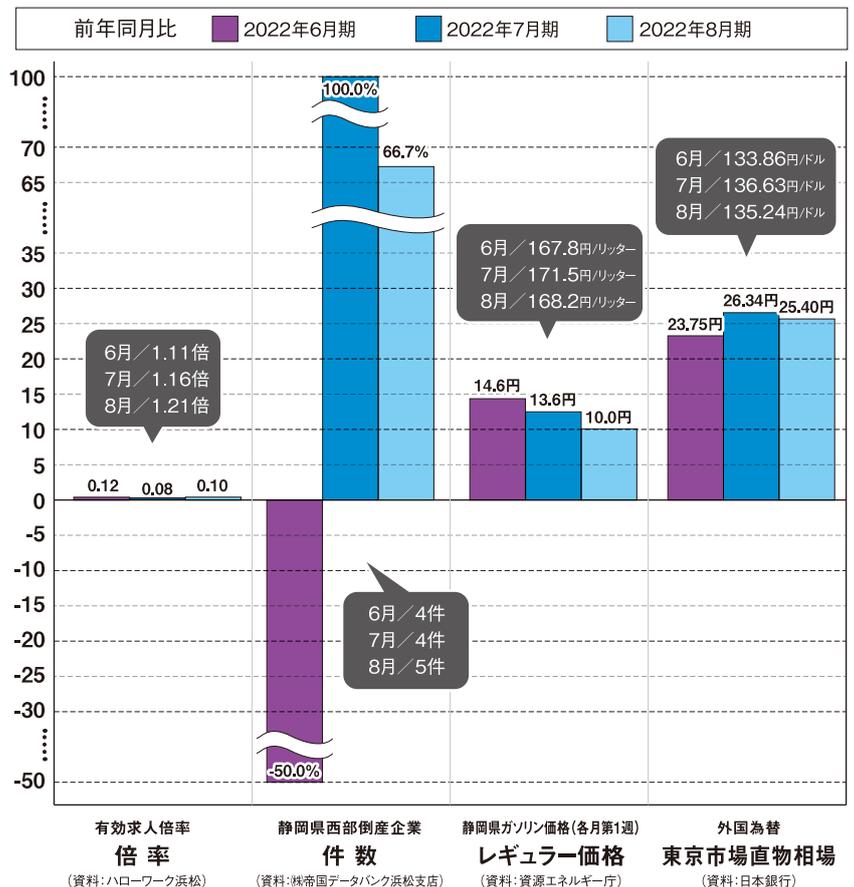


2022年8月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり168.2円となった。前年同月との比較では10.0円の上昇であった。前月との比較では3.3円下降した。

外国為替



2022年8月の外国為替は1ドル135.24円、前年同月と比較すると25.40円の円安となった。前月より円高となったが、日米の金利差拡大により円安傾向が続いている。円安による物価への影響が懸念される。



行動制限が行われず業況DI改善するも、 原材料価格の高騰等が足かせ

2022.
7月～9月期

中小企業景気動向調査
結果報告

2022年11月発行

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数は、数値的には2四半期連続で改善した。ただし、業種別にみると、改善と悪化がまちまちとなっており、回復感が乏しい状況となっている。

※業況判断指数……景況判断の基準としてDI(Diffusion Index)による分析で、各質問項目のプラス傾向割合からマイナス傾向割合を差し引いた数値のこと

	全体			うち小規模事業者				
	調査数	業況		調査数	業況			
		前期	今期	見通し	前期	今期	見通し	
全体	626				256			
二輪車部品製造	53				19			
自動車部品製造	69				19			
機械部品製造	60				33			
楽器部品製造	21				14			
繊維製造	22				18			
卸売業	75				27			
小売業	60				26			
建設業	71				13			
不動産業	43				30			
飲食・宿泊・レジャー等	24				[2022年7月～9月期中小企業景気動向調査]より 浜松市内の中小企業を対象に、業況判断・売上高・経常利益等のDI値を、四半期毎に産業別・地域別等に算出する景気動向調査です。経営者へのヒアリングをベースに算出しています。			

調査で聞き取ったコメント

※意見の多かったものを抜粋して掲載しています。

- 燃料費や動力費等の経費が増加し、収益を圧迫している。(自動車部品製造)
- 設備投資意欲の回復に伴い、受注は回復傾向にある。(機械部品製造)
- 原材料は大幅に上昇しているが、当面は経費削減で対応していきたい。(食品製造販売)
- 利用者数は、概ねコロナ以前に戻りつつある。(レジャー)

天気予報図の見方

DI:景気動向指数



浜松地域の経済動向

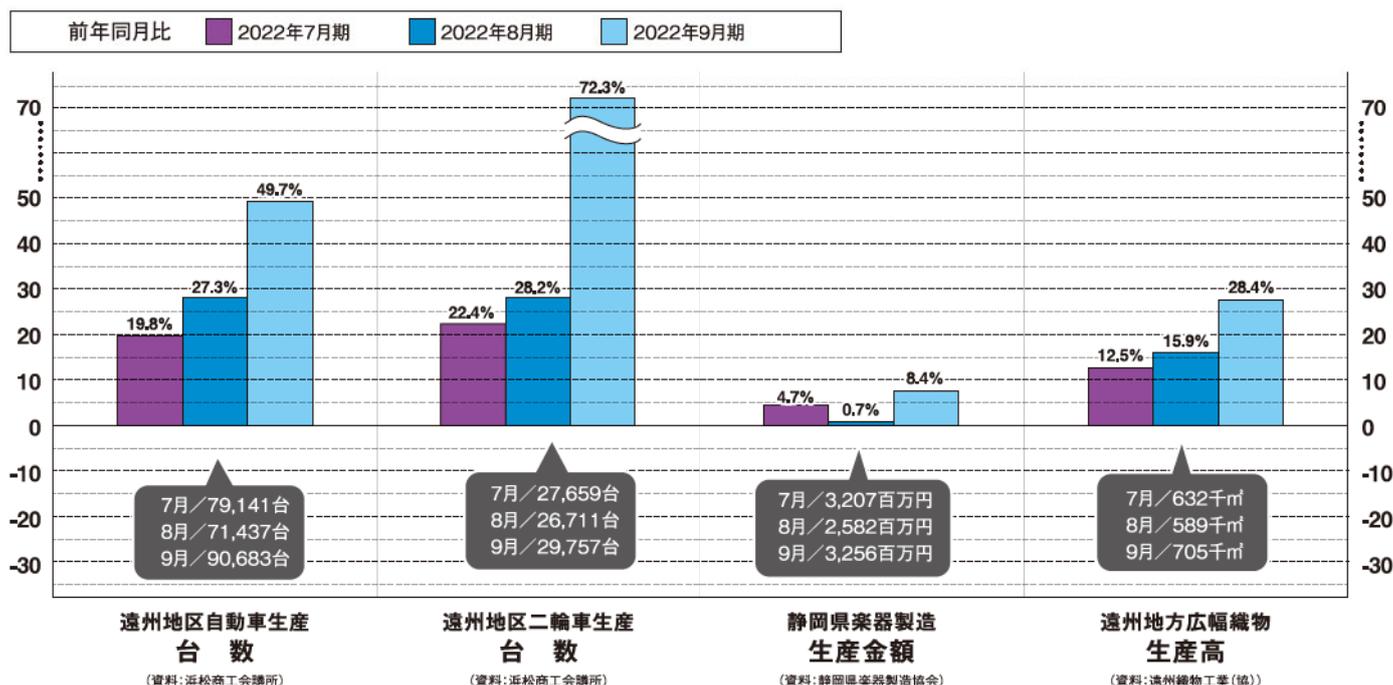
2022年9月を中心に

円安の影響を受けつつも製造業の供給制約が和らぎ、全体としては緩やかに回復している。

製造業では、自動車、二輪車、楽器とも供給制約の緩和もあり、業況は堅調に推移した。繊維業も回復の兆しが見え始めている。運輸・観光業では、9月中旬まで続いたコロナ第7波の影響もありタクシー乗車人員、ホテル稼働率とも伸び悩んだ。浜松管内有効求人倍率は4カ月連続で前月を上回っているが、求人数は伸び悩んでいる。倒産企業数は前年同月より2件減少したが、負債額は増えている。ガソリン価格は170円近辺で高止まりしており、為替相場は140円を超える円安となっている。



① 製造業（主要経済指標）



自動車



2022年9月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比49.7%増の9.0万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は37.7%増、小型四輪車は86.5%増、普通自動車は19.0%増となった。国内向けは61.9%増、輸出は22.4%増と全ての項目で増加となった。自動車生産台数は18カ月ぶりに9.0万台の大台にのり、部品の供給不足が徐々に改善していることがうかがえる。

二輪車



2022年9月における二輪車生産台数は前年同月比72.3%増の2.9万台となった。国内向けは1.6%増、輸出は87.9%増であった。排気量別では、50cc以下8.9%増、51cc～125cc以下8.2%減、126cc～250cc以下19.4%増、251cc以上124.5%増であった。二輪車生産台数は4カ月連続で2.5万台以上となっており、需要は活発である。

楽器



2022年9月における生産金額は前年同月比8.4%増の32.5億円となった。分野別に前年同月と比較してみると、ピアノ3.8%減、電子・電気ピアノ24.3%減、電子オルガン79.8%増、管楽器18.1%増となっている。生産金額は前月より回復し、再び30億円を超えた。4～9月の1カ月平均生産金額は30.0億円となっている。

繊維



2022年9月の生産高は前年同月比28.4%増の705千㎡となり、6カ月連続で前年同月を上回った。行動制限もなく、イベントなどの催しが再開され、外出の機会が増えることで回復の兆しが見え始め、一部の品種を生産する工場では堅調さが見られるようになった。しかし、電気代の高騰や円安の加速など生産コストの上昇は、生産高回復にとつての懸念材料となっている。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年9月におけるタクシー乗車人員は、前年同月比63.4%増の28.0万人となった。7月中旬から9月中旬にかけてのコロナ第7波の影響で乗車人員は伸び悩んだ。9月中旬以降は、ホテルの客、ビジネス客等は増えていないが、買い物利用客、駅のタクシー乗り場の利用者や夜の繁華街からの帰宅者は増え始めた。

観光

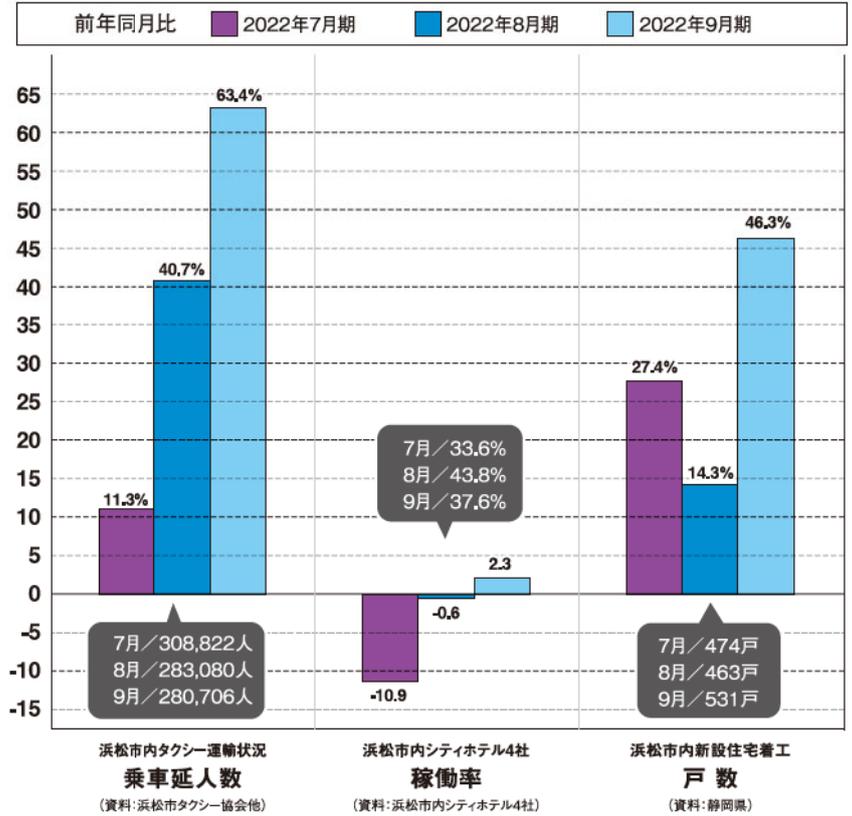


9月の浜松市内ホテルの稼働率は37.6%で、前年同月比2.3ポイントの増加であった。個人客は、「今こそしずおか元気旅」の利用により若干伸びたが、ビジネス客に関しては、いまだ伸び悩んでいる状況にある。

住宅着工



2022年9月における浜松市の新設住宅着工件数は、前年同月比168戸増(46.3%増)の531戸となった。内訳をみると、持家は56戸減少、貸家145戸増加、分譲住宅は76戸増加であった。静岡県全体では1,566戸で前年同月比75戸減少した。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年9月の有効求人倍率は1.24倍となった。前年同月との比較では0.06ポイント、前月との比較では0.03ポイント上回った。全国(1.34)との比較では0.10ポイント、静岡県(1.33)との比較では0.09ポイント下回った。有効求人倍率は4カ月連続で前月を上回っているが有効求人数は伸び悩んでおり、全国、静岡県より改善スピードは遅くなっている。

倒産企業



2022年9月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は8件、負債総額は5.4億円となった。前年同月との比較では倒産件数は2件減少したが、前月との比較では3件増加した。負債額は1.4億円増加した。静岡県全体の倒産件数は14件で、前年同月より4件減少した。物価高騰が続いており、資金繰り悪化による倒産企業数の増加が懸念される。

ガソリン価格

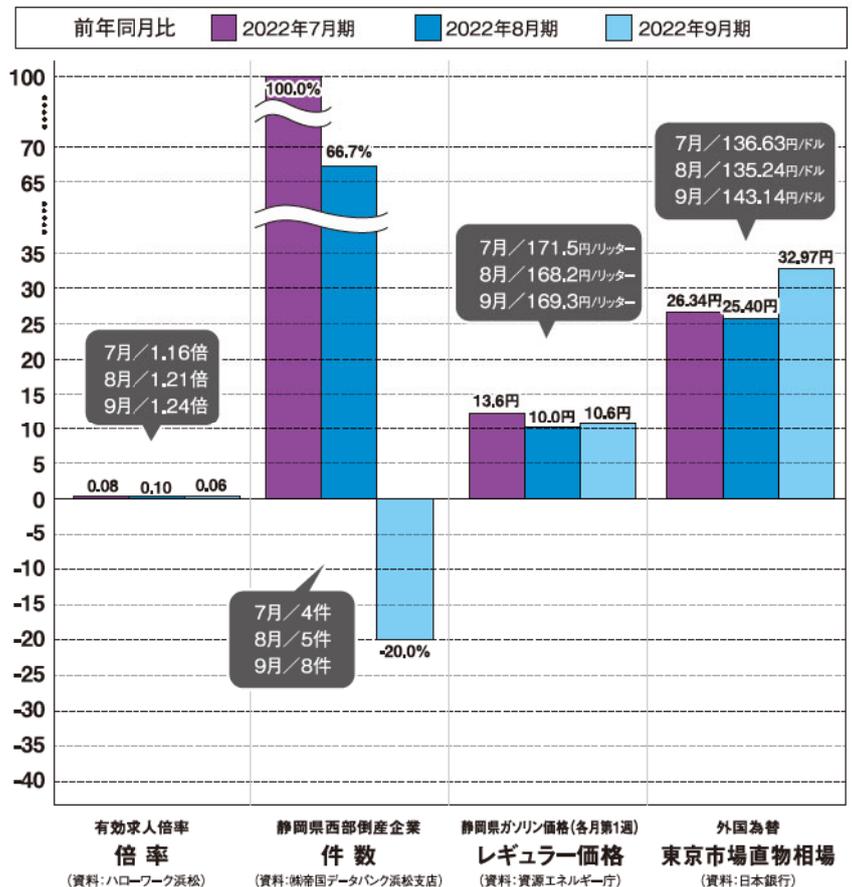


2022年9月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり169.3円となった。前年同月との比較では10.6円の上昇であった。前月との比較では1.1円上昇した。ガソリン価格は170円前後で高止まりしている。円安、産油国の減産によるガソリン価格高騰が危惧される。

外国為替



2022年9月の外国為替は1ドル143.14円、前年同月と比較すると32.97円の円安となった。前月との比較では7.9円の円安となった。資源高による大幅な貿易赤字、コロナ禍からの景気回復の遅れ、断続的に行われる米国の利上げなどが円安要因となっており、9月も記録的な円安となっている。



浜松地域の経済動向

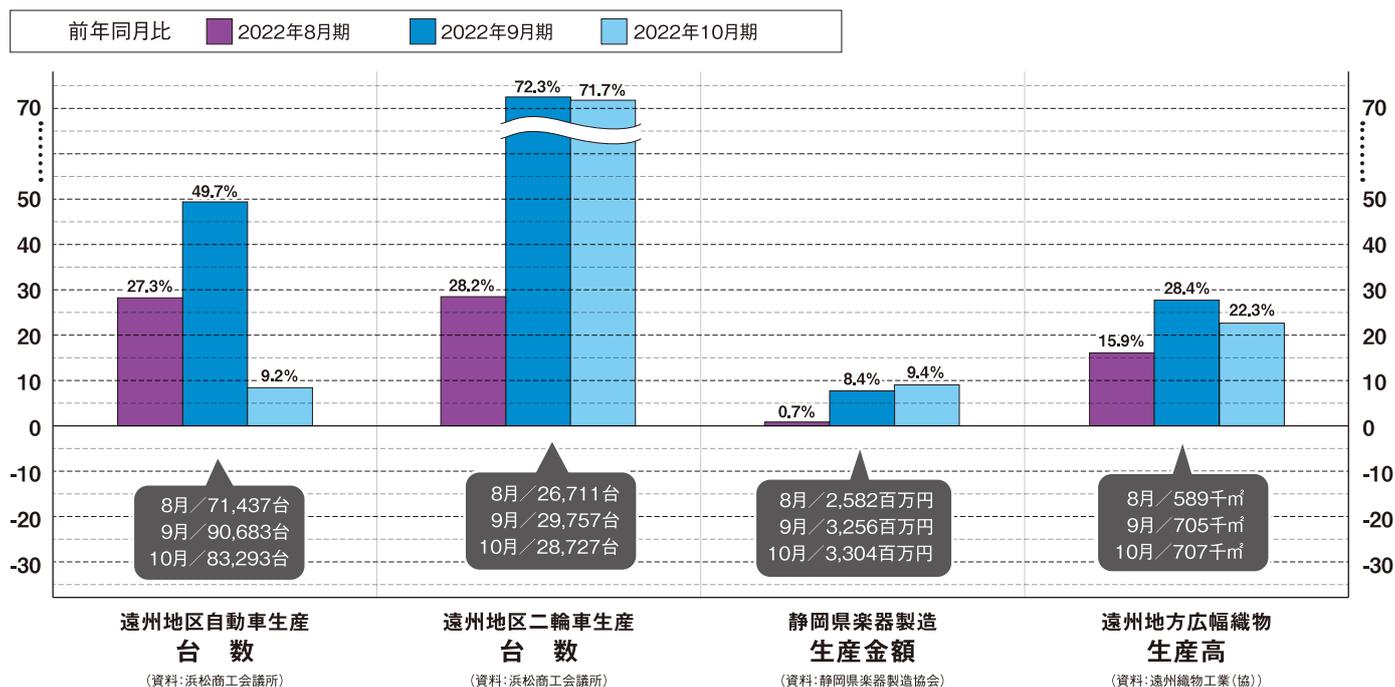
2022年10月を中心に

原材料価格高騰の影響を受けるものの、
基調としては持ち直してきている。

原材料価格の高騰、新型コロナウイルス感染症、供給制約の影響を受けつつも、全体としては持ち直してきている。製造業では、自動車、二輪車、楽器とも前年同月を上回っている。特に二輪車は旺盛な需要を受け堅調に推移した。観光関連はコロナ禍の制約が緩和され、「全国旅行支援」の開始もあり、ホテル稼働率、タクシー乗車率は前年同月を上回った。浜松市内新築住宅着工件数は前年同月より減少した。有効求人倍率は前年同月を上回ったものの前月より低下した。外国為替では引き続き円安が続いている。



① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2022年10月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比9.2%増の8.3万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は8.7%増、小型四輪車は14.3%増、普通自動車は20.0%減となった。国内向けは25.3%増、輸出は29.1%減となった。自動車生産台数は9月の9.0万台から若干落ち込んだものの、半導体および部品の供給不足は徐々に改善している。

二輪車



2022年10月における二輪車生産台数は前年同月比71.7%増の2.8万台となった。国内向けは22.7%増、輸出は79.8%増であった。排気量別では、50cc以下1.9%増、51cc～125cc以下8.3%増、126cc～250cc以下46.2%増、251cc以上120.5%増であった。二輪車生産台数は5カ月連続で2.5万台以上となっており、需要は活発である。

楽器



2022年10月における生産金額は前年同月比9.4%増の33.0億円となった。生産金額は9月より増加となり、2カ月連続で30億円を超えている。分野別生産高を前年同月と比較してみると、ピアノ2.8%減、電子・電気ピアノ69.7%減、電子オルガン105.8%増、管楽器5.1%増となっている。

繊維



2022年10月の生産高は前年同月比22.3%増の707千㎡となり、7カ月連続で前年同月を上回った。来春夏向け生地生産が活発化する時期を迎え、遠州産地の織布工場も前年と比べると稼働率は高まっている様子である。しかし、原材料高、生産コスト高、物流コスト高、そしてさまざまな物の価格上昇の環境が、見通しを不明確にしている。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年10月におけるタクシー乗車人員は、前年同月比11.3%増の30.6万人となった。コロナ禍で中止されていたイベントが、ある程度制限なしで開催されたため、週末などは昼夜を問わず乗車人員が増えた。あとは、ビジネス客が増えてくれば駅の待機時間も改善されそうである。

観光

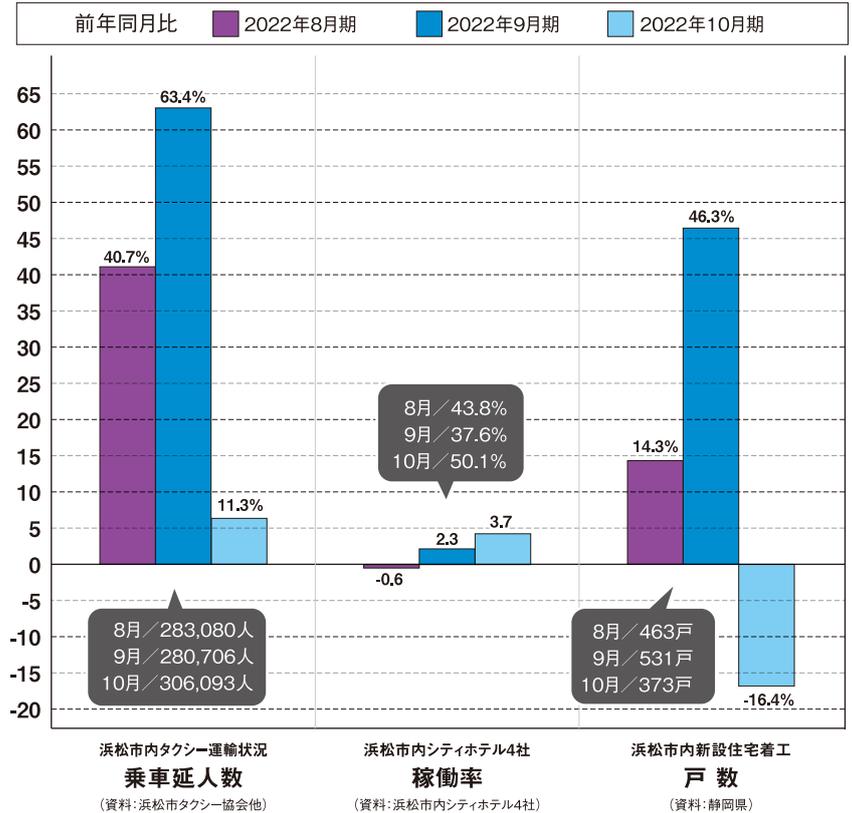


10月の浜松市内ホテルの稼働率は50.1%で、前年同月比3.7ポイントの改善であった。稼働率が50%を超えるのは、2020年11月以来である。10月より「全国旅行支援」に切り替わり、週末は個人客が増大したのが要因である。

住宅着工



2022年10月における浜松市の新設住宅着工件数は、前年同月比73戸(16.4%)減の373戸となった。内訳をみると、持家は182戸、貸家97戸、分譲住宅は72戸であった。静岡県全体では1,641戸で前年同月比438戸減少した。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年10月の有効求人倍率は1.23倍となった。前年同月との比較では0.07ポイント上回ったが、前月との比較では0.01ポイント下回った。全国(1.35)との比較では0.12ポイント、静岡県(1.32)との比較では0.09ポイント下回った。有効求人倍率は前月まで4カ月連続で前月を上回っていたが、10月は5カ月ぶりに前月を下回った。改善傾向にあった雇用情勢に陰りが見え始めている。

倒産企業



2022年10月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は7件、負債総額は3.0億円となった。倒産件数は前年同月と同数であった。前月との比較では1件減少した。静岡県全体の倒産件数は22件で、前年同月より3件増加した。今後、年末に向け資金繰り悪化による倒産企業数の増加が懸念される。

ガソリン価格

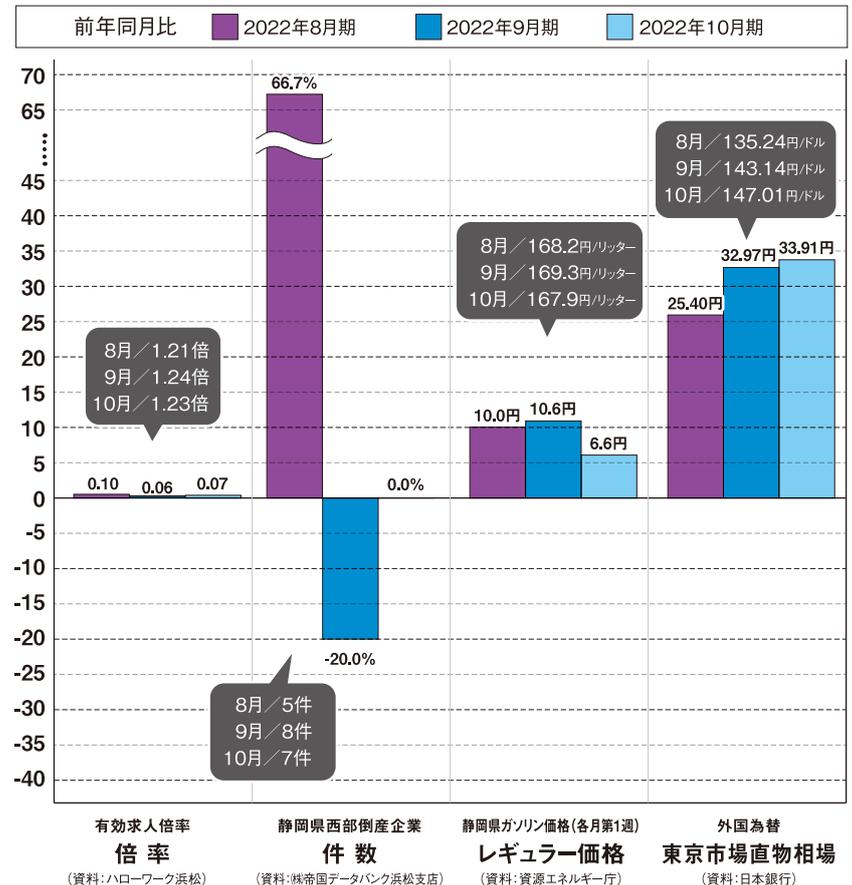


2022年10月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり167.9円となった。前年同月との比較では6.6円の上昇であった。前月との比較では1.4円低下した。ガソリン価格高騰が続いている。

外国為替



2022年10月の外国為替は1ドル147.01円、前年同月と比較すると33.91円の円安となった。前月との比較では3.87円の円安となった。記録的な円安が続いており、円安解消の目途は立っていない。



浜松地域の経済動向

2022年11月を中心に

エネルギー・原材料高の影響を受けるが、
全般的な業況は回復傾向となっている。

製造業では、半導体および部品の供給制約の影響を残しつつも、自動車、二輪車の生産台数は堅調に推移した。

非製造業では、全国旅行支援の浸透もあり、タクシー乗車人員、ホテル稼働率は前年同月を上回った。

雇用情勢は改善傾向にあるが、全国、静岡県の有効求人倍率を下回る状態が続いている。

倒産企業数は前月、前年同月を下回った。140円台の円安が続いており、前月低下したガソリン価格は再び上昇に転じた。

新型コロナウイルス感染症、エネルギー・原材料高の影響を受けるが、全般的には業況は回復傾向となっている。

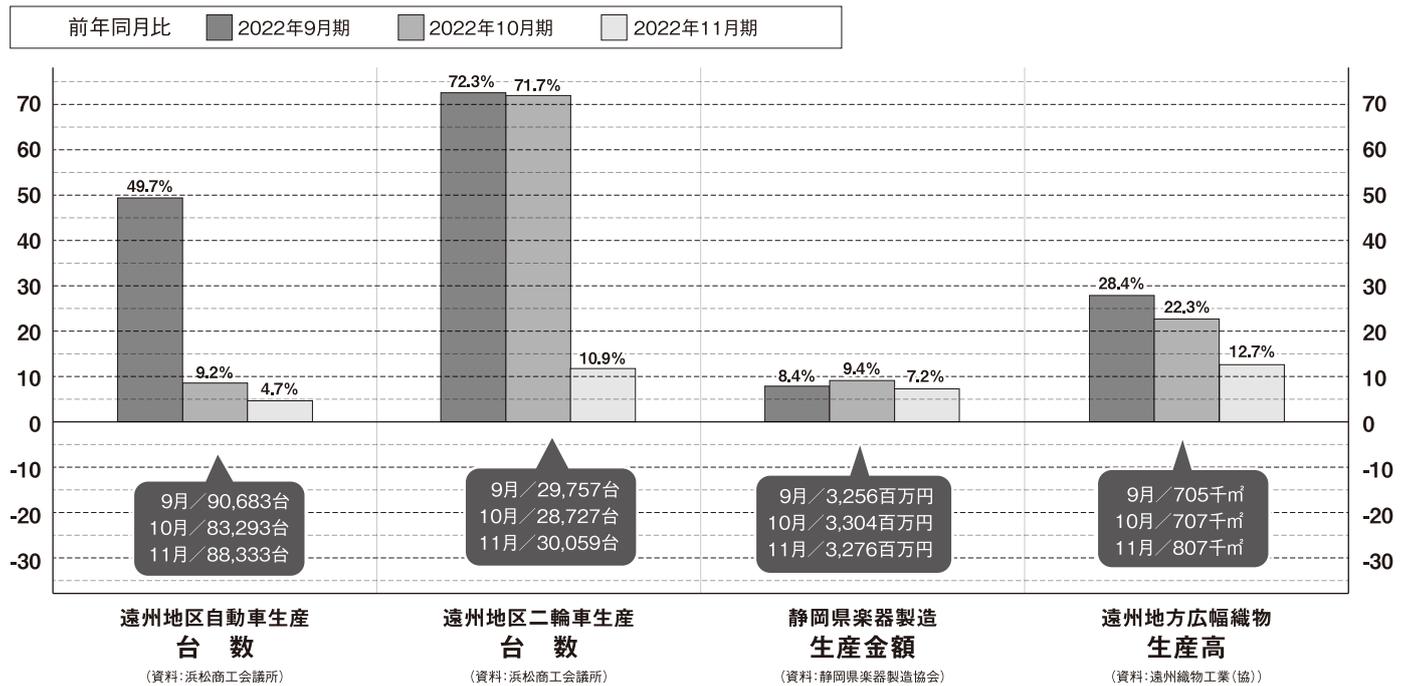
2023.

2月

2023年2月発行

発行：浜松商工会議所

① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2022年11月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比4.7%増の8.8万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は12.7%減、小型四輪車は89.0%増、普通自動車は1.0%増となった。国内向けは6.2%増、輸出は1.6%減となった。自動車生産台数は半導体および部品の供給不足が改善傾向にあり、7カ月連続で前年同月を上回った。

二輪車



2022年11月における二輪車生産台数は前年同月比10.9%増の3.0万台となった。国内向けは16.7%減、輸出は14.2%増であった。排気量別では、50cc以下21.8%減、51cc～125cc以下3.4%減、126cc～250cc以下17.5%増、251cc以上18.8%増であった。二輪車生産台数は、調査開始以降最も多い3.0万台超えとなり、需要は引き続き活発に推移している。

楽器



2022年11月における生産金額は前年同月比7.2%増の32.7億円となった。生産金額は3カ月連続で30億円超えとなり、アジアを中心に中高級価格帯のピアノ販売が堅調に推移している。分野別生産高を前年同月と比較してみると、ピアノ7.0%減、電子・電気ピアノ86.3%減、電子オルガン20.4%増、管楽器11.8%増となっている。

繊維



2022年11月の生産高は前年同月比12.7%増の807千㎡となり、8カ月連続で前年同月を上回った。前年と比べると稼働率は高まっている様子であるが、コロナ禍以前の状況にはほど遠く、生産見通しは不透明かつ厳しい状況が続く。原材料高、生産コスト高、物流コスト高、そしてさまざまな物の価格上昇の環境が、見通しを不透明にしている。

浜松地域の経済動向

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年11月におけるタクシー乗車人員は、前年同月比2.7%増の29.3万人となった。ホテルの催事も人数が増え、仕事に繋がりはじめた。駅から乗車のお客も増え、タクシー車両の駅での待機時間も減少している。全国旅行支援が浸透し、2～3時間の貸切の仕事が増えてきている。

観光

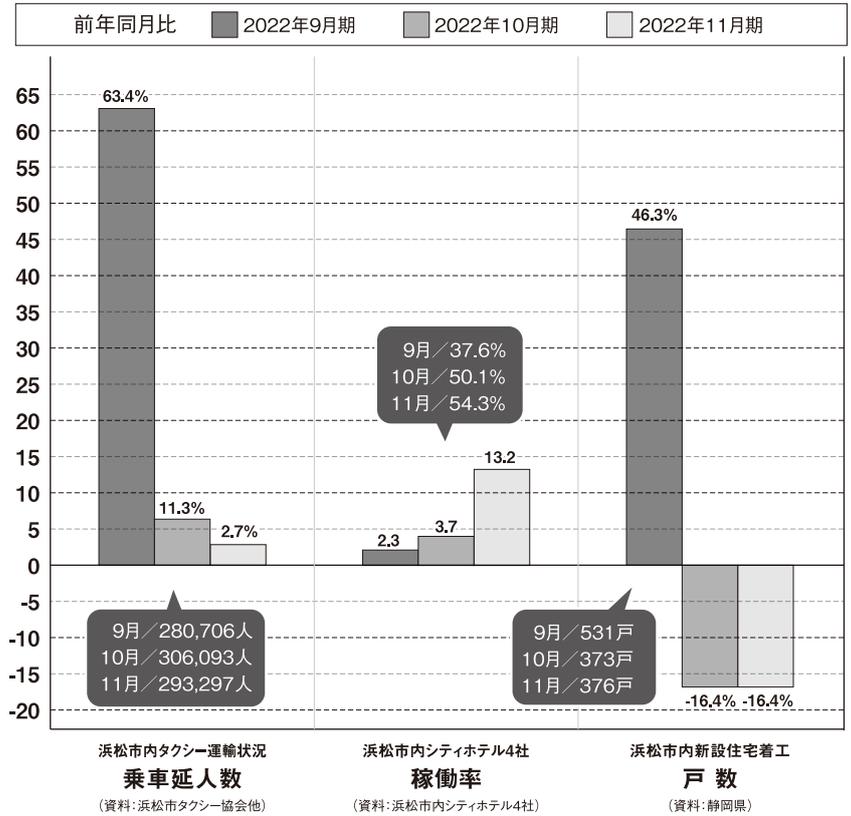


2022年11月の浜松市内ホテルの稼働率は54.3%で、前年同月比13.2ポイントの改善であった。2カ月続けて稼働率が50%を超えた。10月より「全国旅行支援」が始まり、週末を中心に個人客が増加したのが要因である。団体客については、いまだ動きは鈍い感じである。

住宅着工



2022年11月における浜松市の新設住宅着工件数は、前年同月比74戸(16.4%)減の376戸となった。内訳をみると、持家は185戸、貸家122戸、分譲住宅は69戸であった。静岡県全体では1,685戸で前年同月比254戸減少した。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年11月の有効求人倍率は1.26倍となった。前年同月との比較では0.08ポイント、前月との比較では0.03ポイント上回った。全国(1.35)との比較では0.09ポイント、静岡県(1.31)との比較では0.05ポイント下回った。浜松管内の雇用情勢は改善の動きが見られるものの、全国、静岡県を下回る状態が続いている。

倒産企業



2022年11月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は5件、負債総額は3.5億円となった。倒産件数は前年同月より1件減少となった。静岡県全体の倒産件数は13件で、前年同月より3件減少した。新型コロナウイルス感染症、エネルギー価格・原材料高が続いているが、倒産件数に大きな変化は出ていない。

ガソリン価格

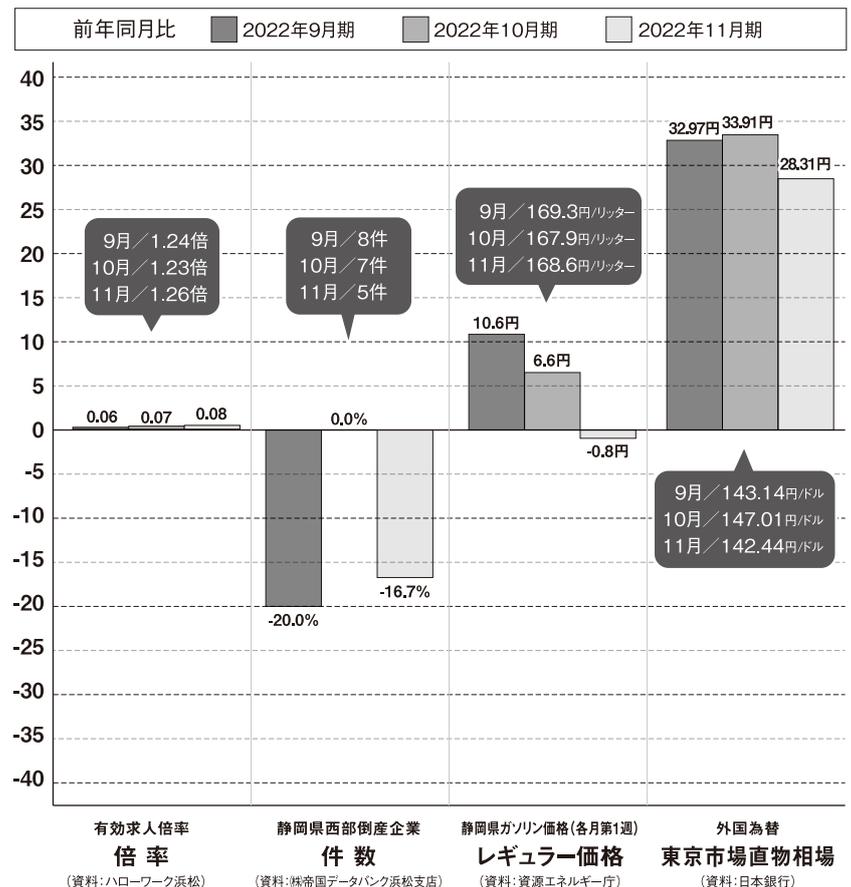


2022年11月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり168.6円となった。前年同月との比較では0.8円の低下であった。前月との比較では0.7円上昇した。前月低下したガソリン価格が11月には再び上昇に転じた。

外国為替



2022年11月の外国為替は1ドル142.44円、前年同月と比較すると28.31円の円安となった。前月との比較では4.57円の円高となったが、依然140円台で推移している。円安によるエネルギー・原材料価格上昇が懸念される。



原材料価格の高騰続くも、 全国旅行支援などにより業況DI改善

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数は、数値的には3四半期連続で改善した。
業種別にみると、製造業は供給制約が続くものの、足踏み状態から改善に転換している。

2022.
10月~12月期

中小企業景気動向調査
結果報告

2023年2月発行

※業況判断指数……景況判断の基準としてDI(Diffusion Index)による分析で、各質問項目のプラス傾向割合からマイナス傾向割合を差し引いた数値のこと

	全体			うち小規模事業者			
	調査数	業況		調査数	業況		
		前期	今期	見通し	前期	今期	見通し
全体	627				261		
二輪車部品製造	49				20		
自動車部品製造	70				16		
機械部品製造	58				34		
楽器部品製造	22				15		
繊維製造	22				18		
卸売業	75				28		
小売業	60				25		
建設業	70				13		
不動産業	45				31		
飲食・宿泊・レジャー等	23				[2022年10月~12月期中小企業景気動向調査]より浜松市内の中小企業を対象に、業況判断・売上高・経常利益等のDI値を、四半期毎に産業別・地域別等に算出する景気動向調査です。経営者へのヒアリングをベースに算出しています。		

調査で聞き取ったコメント

※意見の多かったものを抜粋して掲載しています。

- 主要取引先からの受注状況は堅調に推移している。(二輪車部品製造)
- 行事や季節ごとのイベントも増えてきているため、売上は回復していく見込み。(繊維製造)
- 販売車両の不足が続いており、売上は停滞している。(自動車販売)
- コロナ禍でも、2~4名程度の小規模を中心に客足は戻りつつある。(飲食)

天気予報図の見方

DI:景気動向指数



浜松地域の経済動向

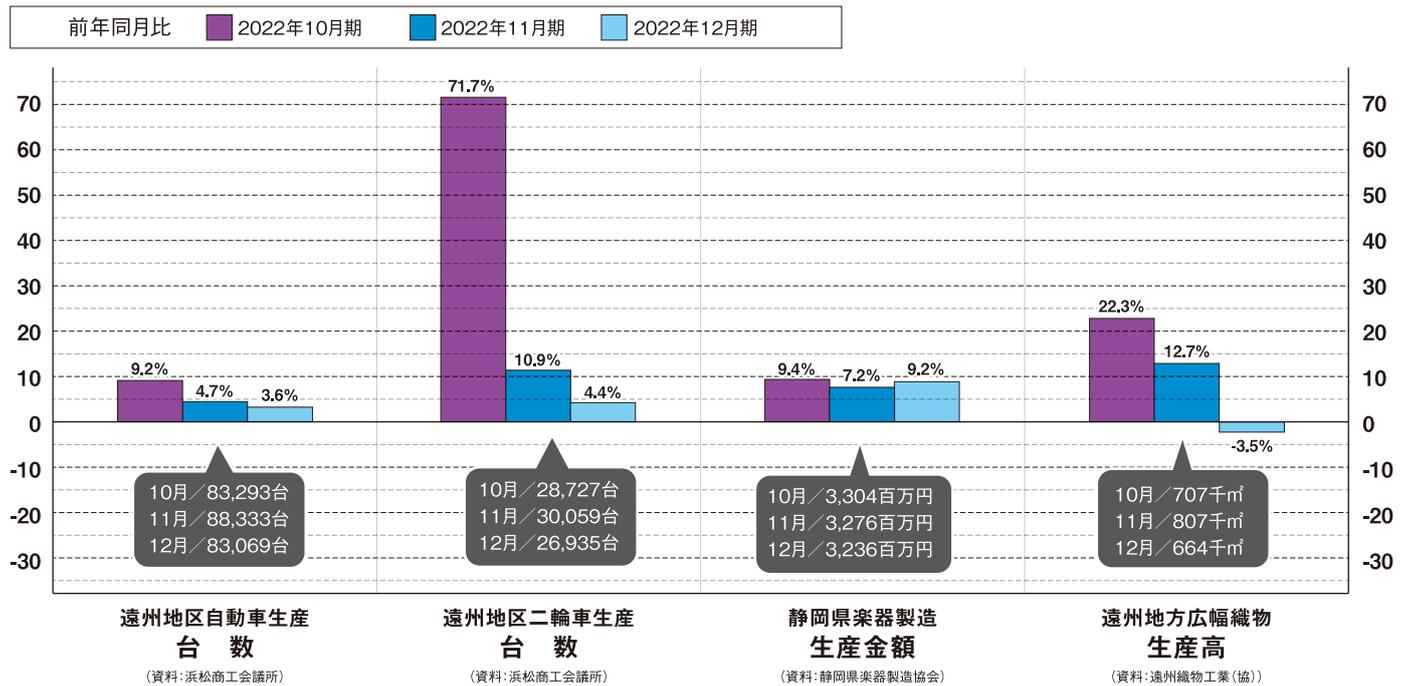
2022年12月を中心に

各種制約が緩和されつつあり、一部に弱さが見られるものの、
基調としては緩やかに回復している。

製造業では、半導体、各種部品などの供給制約が緩和されつつあることから、自動車、二輪車の生産台数は前年同月を上回った。楽器生産金額は引き続き堅調に推移している。繊維は前年同月を下回った。非製造業では、「全国旅行支援」による個人客の増加でホテル稼働率が上昇した。有効求人倍率は回復傾向となっている。企業倒産件数は前月および前年同月を上回った。新型コロナウイルス感染症や原材料、エネルギー価格上昇が一因となる倒産が増えてきている。外国為替では2カ月連続で前月より円高となった。



① 製造業〈主要経済指標〉



自動車



2022年12月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比3.6%増の8.3万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は0.2%増、小型四輪車は14.5%増、普通自動車は19.9%減となった。国内向けは11.9%増、輸出は17.5%減となった。自動車生産台数は部品の調達難や半導体不足による生産制約が緩和されたことで、生産は徐々に回復しており8カ月連続で前年同月を上回った。

二輪車



2022年12月における二輪車生産台数は前年同月比4.4%増の2.6万台となった。国内向けは28.1%減、輸出は8.7%増であった。排気量別では、50cc以下25.0%減、51cc~125cc以下31.8%増、126cc~250cc以下11.0%減、251cc以上8.5%増であった。二輪車の年間生産台数(1~12月)は31.2万台となり、2010年以降初の30万台を超えた。需要は引き続き活発に推移している。

楽器



2022年12月における生産金額は前年同月比9.2%増の32.3億円となった。生産金額は4カ月連続で30億円を超えとなり、好調を維持している。中高級価格帯ピアノはアジアを中心とした富裕層への人気が高い。分野別生産高を前年同月と比較してみると、ピアノ3.0%増、電子・電気ピアノ73.5%減、電子オルガン91.3%増、管楽器2.8%増となっている。

繊維



2022年12月の生産高は前年同月比3.5%減の664千㎡となり、9カ月ぶりに前年同月を下回った。行動制限もなく、イベントなどの催しが再開されたため、今シーズンは10月のシーズンインの時期は、生産が活発化する兆しが見えた。しかし、12月を迎える頃にはリピート発注が少なく、生産活動は失速した。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年12月におけるタクシー乗車人員は、前年同月比2.2%減の33万人となった。12月中旬以降年末にかけて、夜の繁華街の人出が多くなってきている。0時前には駅でタクシー待ちの行列ができる日が増えている。しかし、タクシー車両全体が減っており、乗車人員は伸び悩んでいる。

観光

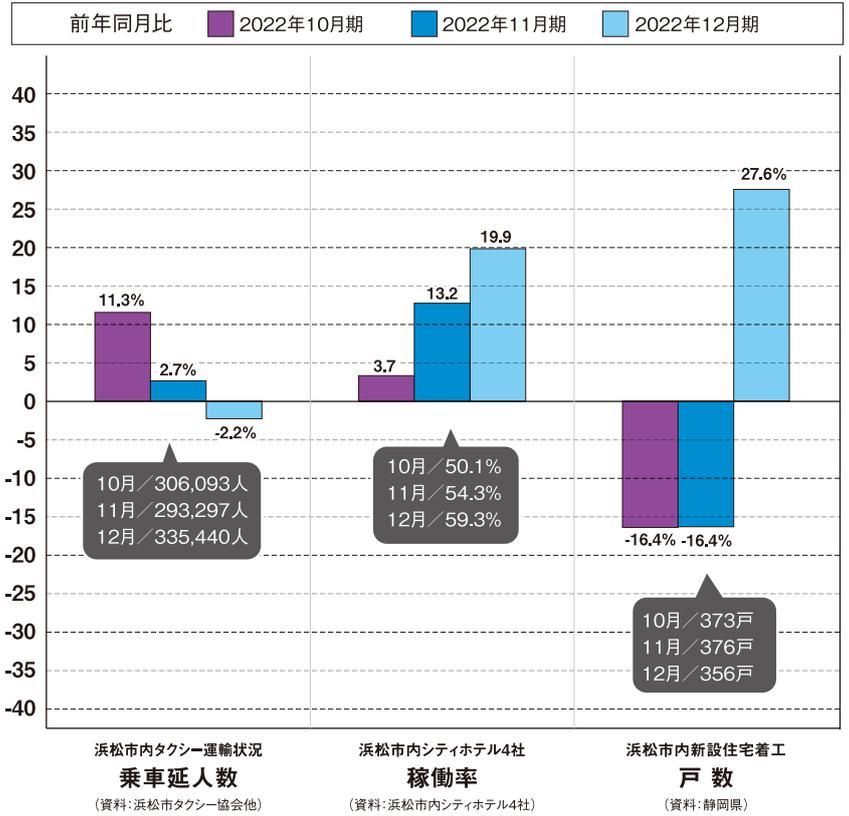


2022年12月の浜松市内ホテルの稼働率は59.3%で、前年同月比19.9ポイントの改善であった。3カ月連続で稼働率が50%を超えた。10月より「全国旅行支援」が始まり、週末を中心に個人客が増加したのが要因である。団体客については、いまだ動きは鈍い感じである。今後は、大河ドラマ関連の集客に期待している。

住宅着工



2022年12月における浜松市の新設住宅着工件数は、前年同月比77戸(27.6%)増の356戸となった。内訳をみると、持家は142戸、貸家124戸、分譲住宅は89戸であった。また、年間の着工件数では4,883戸となり前年比0.5%の微増であった。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年12月の有効求人倍率は1.32倍となった。前年同月との比較では0.13ポイント、前月との比較では0.06ポイント上回った。全国(1.35)との比較では0.03ポイント下回ったが、静岡県(1.29)との比較では0.03ポイント上回った。浜松管内の有効求人倍率は2カ月連続で連続で前月を上回った。

倒産企業



2022年12月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は9件、負債総額は10.7億円となった。倒産件数は前年同月より1件増加した。静岡県全体の倒産件数は23件で、前年同月より4件増加した。新型コロナウイルス感染症、原材料、エネルギー価格上昇の影響が一因となるケースが増えてきている。今後、新型コロナウイルス関連融資の返済や融資金利上昇による倒産が懸念される。

ガソリン価格



2022年12月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり167.9円となった。前年同月と同額であった。前月との比較では0.7円低下した。

外国為替



2022年12月の外国為替は1ドル134.93円、前年同月と比較すると21.06円の円安となった。前月との比較では7.51円の円高となった。前月対比では2カ月連続で前月より円高となっている。

